

沼津高専だより

第100号記念号

平成24年3月12日発行
独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL <055> 921-2700



沼津高専は、2012年に創立50周年を迎えます。

題字：柳下福藏 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL)<http://www.numazu-ct.ac.jp/>

目次

☆沼津工業高等専門学校**の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針**……………2

☆**校長・副校長・校長補佐から(平成23年度総評)**

沼津高専の高度化に向けて……………校長 柳下福藏…3
 平成23年度を振り返って……………副校長(教務主事) 大島 茂…3
 平成23年度を学生指導から振り返る……………校長補佐(学生主事) 蓮實文彦…4
 平成23年度総評……………校長補佐(寮務主事) 遠藤良樹…5
 平成23年度の総評……………校長補佐(専攻科長) 遠山和之…5
 平成23年度を振り返って……………校長補佐(国際交流・FD担当) 大久保清美…6
 (統)沼津高専の新たな教育が平成24年度よりスタートします
 -混合学級と学際教育の導入-……………校長補佐(学際教育担当) 押川達夫…7

☆**各学科から(平成23年度総評)**

機械工学科の近況……………機械工学科長 小林隆志…8
 平成23年度を振り返って……………電気電子工学科長 望月孔二…8
 平成23年度末にあたって……………電子制御工学科長 川上 誠…9
 制御情報工学科平成23年度を振り返って……………制御情報工学科長 長谷賢治…9
 物質工学科の今年度を振り返って……………物質工学科長 芳野恭士…10
 平成23年度を終えるにあたり……………教養科長 西垣誠一…11

☆**部活動**

第46回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧……………12
 第49回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧……………12

●**全国大会出場報告**

全国大会出場報告……………サッカー部 塚本 優…13
 全国大会に出場した女子200mリレー……………水泳部 前田英里奈…14
 バドミントン部女子団体戦優勝……………バドミントン部 佐野友美…15

☆**行事・コンテスト・その他イベント**

●**体育祭**

感謝をこめて……………体育祭実行委員長 電子制御工学科4年 伊藤彩花…15

●**高専祭**

第46回高専祭を終えて……………高専祭実行委員長 制御情報工学科5年 土屋 究…16

●**3年スキー合宿研修**

3年スキー合宿研修報告……………3年学年代表 芹澤弘秀…17

●**ロボットコンテスト2011**

これぞ高専の部活～全国への扉を開け～……………ロボコン部顧問 青木悠祐…17

2011年沼津高専ロボコン部について……………ロボコン部 電子制御工学科3年 片山量弥…18

●**その他イベント**

東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト 優勝報告……………スピーチで得たこと……………制御情報工学科5年 赤沼亮介…19
 アメリカ・シアトル語学研修報告……………アメリカ・シアトル語学研修&異文化体験……………教養科 鈴木久博…19

海外体験報告

豊橋技術科学大学主催大学生交流プログラムに参加して……………電子制御工学科5年 宮田昌輝…20
 北アイルランドでの海外国際インターンシップに参加して……………制御・情報システム工学専攻1年 杉山隆介…20
 海外インターンシップ報告……………制御・情報システム工学専攻2年 早苗駿一…20

How to Become A Global Engineer参加報告

世界で活躍するために本当に必要なこと……………物質工学科5年 上野翔也…21
 平成23年度工学系数学統一試験結果……………教養科 遠藤良樹…21

☆**退職教職員から**

よき技術者とは……………機械工学科 手塚重久…22
 定年に際して……………電気電子工学科 高橋儀男…22
 新たな出発を前にして……………電子制御工学科 舟田敏雄…23
 3年で一人前?……………制御情報工学科 相良 誠…23
 日本……………学生課長 山添 均…24
 沼津高専と私……………寮務係長 佐野幸子…24

☆**卒業生・修了生から**

感謝の意を込めて……………制御情報工学科5年 吉澤真美…25
 高専による成長、就職という進路……………物質工学科5年 山田大貴…25
 研鑽と躊躇……………制御・情報システム工学専攻2年 小林宏充…26
 ブレイク……………応用物質工学専攻2年 中戸川 奨…26

☆**私の高専時代**

沼津高専で得たもの……………電気電子工学科 望月孔二…27

☆**学生の研究活動(2011.5.1～2012.4.30)**……………28

☆**平成23年度卒業生・修了生進路先一覧**……………35

☆**教育後援会から**

卒業に際して……………教育後援会会長(E5) 川口淳子…37
 卒業に際して……………教育後援会副会長(D5) 刑部 浩…37

☆**事務部から**

平成24年度前期分授業料の免除および徴収猶予について……………38
 平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)行事予定表……………39

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

する。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請にこたえて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- ・ 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- ・ 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- ・ 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- ・ 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

校長・副校長・校長補佐から(平成23年度総評)



沼津高専の 高度化に向けて

学 校 長
柳 下 福 藏

(独) 国立高等専門学校機構の第二期(平成21年～25年)中期目標の柱は高専の高度化であります。

本校は、産学官の外部有識者委員により構成された運営諮問会議の提言に基づいて自主的・自律的に改革を進め、環境・エネルギー、医療・福祉を重視する社会経済環境の変化に積極的に対応するための学際教育をとり込んだ新教育課程を作成しました。平成24年度の新入生から1学年に混合学級、2学年にミニ研究、3・4・5学年に専門5学科の基幹科目に併せて学際分野(環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料)の教科目を選択し、広い視野を備えた創造的・実践的技術者の育成を目指すことにいたしました。

新教育課程に向けての積極的な取り組みについては、運営諮問会議はもとより、(独) 大学評価・学位授与機構の機関別認証評価(平成17年度に続き本年度2回目の受審)の現地訪問審査委員から高い評価を受けたところであります。さらに、地域共同テクノセンターを中心に近隣企業との共同研究、受託研究が卒業研究、専攻科研究の学生参加のもとに教育の一環として積極的に進められてい

ることはもとより、静岡県ファルマバレープロジェクトの人材育成を担う「富士山麓医用機器開発人材育成プログラム(3年目に入った(独) 科学技術振興機構の地域再生人材創出拠点の形成事業)」及び寄附研究部門「水素利活用技術」等による地域産業界との密接な連携により、ものづくり技術力の継承・発展に著実に貢献している本校の取り組みは全国的にも高く評価されています。

社会経済は相変わらず厳しい状況にありますが、大学卒の就職内定率60数%(平成23年12月現在)に対する本校の就職内定率は例年通り100%であり、この数値は本校の卒業生・修了生に対する企業側の期待がいかに大きいかを端的に物語っています。一方で、経済状況が厳しい時の採用者の中から優秀な技術者が多く出る、という企業側の経験則があり、企業側は大学・大学院卒より高専卒の二十歳の卒業生を採用して企業内でOn the job trainingで育成し大きく成長させることを希望しています。

ともあれ、産業界に就職する諸君、大学・専攻科・大学院に進学する諸君にとって、沼津高専における5年間の学生生活の体験は何物にも代えがたい貴重な五年間(いつとせ)であります。ゆるぎない人生を築き上げる四つの原則として

- 公明正大であること
- 清廉潔白であること
- 裏表がないこと
- 思いやりがあること

の言葉を贈り、卒業生・修了生諸君が「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえる」ように成長されますことを心より祈念しております。



平成23年度を 振り返って

副校長(教務主事)
大 島 茂

平成23年3月11日に発生した東日本大震災のショックが冷めやらぬ中で、計画停電という異常事態の中で平成23年度は始まりました。夏場には電力使用量15%削減の規制のもと、教室と一部限られた施設のみ28℃設定で空調の使用を認め、他は小さな扇風機だけで暑さをしのぎ夏休み前を耐え忍びました。

高専機構の方針に沿って夏季休業期間を8月4日～9月22日として実施し、暑さ対策に苦慮する部分がありましたが、昨年の夏は比較的涼しい日が多く幸いました。他校の友人や、小中学生の兄弟達と夏休み期間がずれて不都合だというご意見等を頂戴しましたが、インターシップや大学の行事等に参加し易くなった、残暑の厳しい時期に休むことができ、その分充実した時間を過ごせ

たというご意見もありました。夏を過ぎてからではありますが、女子寮には各室に空調が設備できました。今年度の経験を踏まえ、平成24年度におきましても、8月初旬から夏季休業とすることとしています。

グローバル技術者育成の目的で、夏季休業期間の9月15日～22日の間の5日間、外国人講師の英語による専門授業を集中講義で実施しました。カナダ生まれのジェームズ・モロイ氏を講師に、「How To Become a Global Engineer」というタイトルの授業を実施しました。5年生20名と専攻科生6名が受講しました。授業は全て英語で行われ、時にはペア、時には4～5名、時には10数名と、変幻自在にグループを組み意見交換をさせてはその結果を発表させるという、とにかく学生達に考えさせコミュニケーションさせる非常に能動的な授業でした。学生達は楽しんで授業に参加していました。グローバルに活躍できる技術者の養成は、日本にとって喫緊の課題であり、産業界から強く望まれていることです。それに応える教育を実行する体制作りは今後さらに力を注いでいく必要があると考えています。

平成23年11月8日、9日に機関別認証評価の訪問調査を

受けました。機関別認証評価は、7年以内毎に受審することが法律で義務付けられている外部評価機関による評価です。高専教育の質の保証、改善、社会への説明を目的としています。本校は平成17年度以来2度目の受審となります。昨年度から準備し、綿密に作成した自己評価書を6月に提出し、その書面調査結果を補完する目的で訪問調査は行われます。各種証拠書類の確認だけでなく、授業や施設の視察、教職員、現役学生や卒業生に対する面談も行われ、多くの学生の協力を得ました。正式な評価結果は3月に公表されることとなりますが、訪問調査終了時の結果報告では全体的に良い評価を頂き、「学生との面談を通じて、沼津高専で学んでいることに満足し誇りを持っている学生が多いことが分かりました」という講評に大変嬉しく思いました。

平成24年度は本校創立50周年の年となります。近年の環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料を重視する産業構造と社会の変化に対応できるエンジニアを育成することを目指し、平成24年度入学生から学際教育を導入した新教育課程に移行します。1年次は混合学級編成とし、所属学科のみならず他学科分野の基礎実験・実習を体験できるようにします。2年次では他学科学生とチームを組

んで行うミニ研究、3～5年次では所属学科の基幹科目と学際分野の教科目を受講できるようにし、より幅広い分野に興味を持ち対応できる技術者を育てることを目指しています。新しく未知のことに挑戦するにはエネルギーを要しますが、多くの教職員が力を合わせて頑張っています。

平成21年度より3年間教務主事を務めさせていただき、その間常に心に重くあったのは、留年・退学者を減らしたいという思いです。そのため、1年生に対する数学の補習、2、3年生を対象とした学習支援等を先生方の協力を得て実施してきました。補習や学習支援相談に訪れた学生達は非常に熱心に学習し、わからないでいた問題が解決できた時は胸中の霧が晴れたような喜びを味わったものと思います。勉学の中にこのような喜びがあることを知ることがとても大切なことなのだと思います。残念なのは、補習への出席状況は必ずしも良くないことです。成績不振にある学生達が、補習や学習支援を受けることの意義をよく理解し、積極的に出席して力をつけ勉学意欲を取り戻してくれることを切に願います。

今年度末で教務主事の任を終えることとなりますが、これまでの皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。



平成23年度を 学生指導から振り返る

校長補佐(学生主事)

蓮 實 文 彦

昨年3月11日の東日本大震災に被災された方々の冷静で沈着、周囲に配慮した行動に世界から称賛が送られました。この美しい日本人の姿を手本とするべく、今年度は、これまでの目標に加え「感謝できる沼津高専生」を目指し、学生指導に取り組んでまいりました。

本年度印象に残ったシーンをご報告いたします。猛暑の夏、6月25日のソフトテニスを皮切りに東海地区国立高専体育大会が開催されました。本校においても、サッカーとバドミントン競技の熱戦が愛鷹広域公園と沼津市立体育館とで繰り広げられました。特にバドミントンは昨年に引き続き、女子団体、個人ダブルス、シングルスと3種目で優勝を勝ち取りました。サッカーも2位、陸上、水泳でも優勝し全国大会に出場しました。女子バドミントン団体は全国大会でも3位に食い込みました。いずれの競技でも、一人一人の汗まみれの輝いた顔が印象に残りました。

11月5、6日に第46回高専祭が開催されました。生憎、2日目の日曜日が雨天となってしまいましたが、悪天候にも関わらず多くの保護者の方々にご来場を頂きました。心より感謝申し上げます。高専祭期間中、いずれの場面でも生き生きとした学生の姿がありました。中でも、高専

祭スタッフの献身的な活躍には脱帽でした。

学生会による6月のゴミフェスタ in 千本浜での清掃活動、10月ラグビー部員による沼津特別支援学校の運動会支援など、学生の陰に隠れた善行もお知らせしたい活動でした。

今年度特筆したいことは、懲戒処分当たる不祥事が3件と極めて少なかったことです。この成果は、朝のショートホームルーム、構内巡回、クリーン活動、クラブ指導など、長年の教職員と学生との様々な努力の賜物と思われまます。ただ、自転車での事故が増加傾向にあります。ご家庭においても注意喚起をお願いいたします。

今年度の大きな成果をもう一つ。学生課に並んで設けられた「学生支援総ゾーン」に9月、新たに「キャリア支援室」が加わりました。この支援室に、本校1期生で会社役員を退任された村松正敏氏をキャリア教育担当の客員教授にお迎えしました。村松先生には1年生から専攻科生に至るキャリア教育プログラムの構築、さらに後期からは一部のクラスでキャリア教育を実施して頂きました。このような就労意識の啓発を目指した指導への取り組みもあり、本校は早々と内定率100%を達成することができました。

私は平成23年度にて学生主事を退任させていただきます。2年間、保護者の皆様にはご理解と多大なるご支援を賜りましたこと深く御礼を申し上げます。

来年度、大久保清美教授が新学生主事に就任されます。大久保教授は8年間、寮務主事として全国に誇る学生寮の構築と運営に尽力されてきました。今後とも変わらぬ学生指導へのご理解とご支援をお願い申し上げます。



平成23年度総評

校長補佐(寮務主事)

遠藤良樹

日ごろ寮運営にご協力、ご理解頂きありがとうございます。今年度も素晴らしい寮生会の協力のもとスタートし、期待通りの活躍をみせてくれました。

さて今年度の活動を簡単に振り返ってみます。

- 4月：24日に新入生歓迎のための親睦会が行われました。また28日には地震を想定した防災訓練も行われました。
- 5月：寮最大のイベントである寮祭が15日に行われました。今年度の寮祭は第50回をむかえ、歴代寮長にも案内を出し数名の方が来て下さいました。寮祭の成功は保護者の皆様のご協力がなければ達成できません。お礼申し上げます。
- 6月：今年も長泉北中学習支援が始まりました。今年は後期から長泉北中学生を対象とした休日学習支援も開始されました。これはE5の鈴木駿太君の発案で実行されたものです。
- 7月：9日に夏祭りが行われました。今年も花火師を招いて打ち上げ花火を行いました。また6日から8日には富山高専指導寮生3名が本校学寮にて寮生活を体験しました。
- 9月：22日から24日にかけて夏季寮生リーダー研修を行いました。例年行っている炊き出しは、東日本大震災のことを教訓に充実したものになりました。



平成23年度の総評

校長補佐(専攻科長)

遠山和之

専攻科生の保護者の皆様には、日頃より専攻科の教育活動にご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。平成23年1月現在で1年生29名、2年生33名の計62名が在籍しており、4月には新たに23名の入学者を迎える予定であります。

本年度10月1日付で専攻科の修了要件から学士の学位取得を外す学則の変更を行いました。この学則の変更は現在在学中の専攻科生から適用され、学士の学位を未修得でも他の修了要件を満たせば、専攻科修了となります。ただし、JABEE認定プログラムである「総合システム工学」修了要件は変更しておりませんので、本プログラム修了者の認定には学士の学位取得が必須です。

昨年11月に本校は、大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受けました。その中で専攻科の教育につ

10月：釧路高専との交換寮生を19日から22日にかけて実施しました。双方2名ずつの寮生が相手校の寮で生活しました。

11月：10月から始まった来年度寮長選挙とこの月に行われた同副寮長選挙により来年度寮生会3役が決まりました。ご紹介しますと、

寮長 川口直輝君 (E4、現副寮長)

副寮長 塚本竜馬君 (S4、現優峰寮棟長)

宮川綾音さん (M3、現明峰寮企画)

です。

以上が今年度の主な活動です。

施設の面では、夏季休業中に明峰寮各居室にエアコンが設置され、11月から本格的に稼動し始めました。

職員の異動ですが、2年間寮運営を支えて下さった学生課の佐野幸子寮務係長がこの3月をもって定年退職いたします。寮務係長としては2年間ですが、永年にわたり主に学生課職員として本校に貢献され、特にこの2年間は寮務係長として大変親身になり寮生の面倒を見て下さいました。また寮運営で多くのアイデアを出していただき大変助かりました。

また山添均学生課長も同じくこの3月で定年退職されます。山添課長は学生課を統括する立場にありますが特に寮生のために尽力され、暑さ対策では多くのことを実行して下さり女子寮各居室エアコン設置では大変お世話になりました。

終わりに、1年間学寮を支えて下さった寮務関係教員、寮務係職員、宿直して下さいました教員、学生課職員、保護者の皆様、そして寮生会、全寮生に感謝いたします。ありがとうございました。

いては、①専攻科総合実験や複合実験、②専攻科課程のシラバス、③専攻科実験(機械工学)など、5つの項目で「優れた点」との評価を受けました。

昨年7月に米国ボルチモアで開催された米国機械学会主催の国際会議で、専攻科2年の羽切大生君が修士・学部部門のStudent Paper Competition Finalist 12名の1人に選ばれ表彰されました。8月には2011年度夏季青少年海外派遣プログラム(ライオンズクラブ主催、派遣先：ドイツ)に専攻科1年の金子裕哉君が、8～9月には国際インターンシップ(富山高専主催、派遣先：北アイルランド)に専攻科1年の杉山隆介君が参加しました。さらに9月には英語(外国人講師)による専門授業“How To Become A Global Engineer”を5日間の日程で開講し、6名の専攻科生が受講しました。プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力は、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けている「総合システム工学」プログラムの学習・教育目標の一つです。専攻科では、今後も、海外インターンシップや外国人講師による専門授業等への参加を積極的に呼び掛ける予定です。海外インターンシップや国際会議への参加は、高額の出費を伴うものですが、

多くのことを経験し学ぶ絶好の機会です。一方、外国人講師による専門授業は、短期間なのですが、学内で実践的な英会話を体験し楽しくコミュニケーション能力を養うことができる、とても有意義な授業です。

平成23年度3月期修了予定者32名は全員進路が決定しており、就職内定者は17名（セイコーエプソン㈱、牧野フライス、東燃ゼネラル石油㈱、メタウォーター㈱、ベックマン・コールター、トヨタテクニカルデベロップメント㈱、ソニーEMCS、㈱日立プラントテクノロジー、日本食品化工㈱、中外医科学研究所、キリンディスティラリー㈱など）、大学院への進学者は15名（東京工科大学

院、東京農工大大学院、横浜国大大学院、静岡大学大学院、奈良先端技術大学院大学、豊橋技術科学大学院など）となっています。

この高専だよりが記念すべき第100号となりました。本校は来年度50周年を迎え、大きな節目の年となります。専攻科におきましても、現在、教育の充実と高度化を図るべく平成26年度から1専攻3コース制（医療福祉機器開発工学専攻コース（仮称）、環境エネルギー工学専攻コース（仮称）・新機能材料工学専攻コース（仮称））をスタートさせる準備を進めております。今後とも専攻科をよろしくお願いたします。



平成23年度を振り返って

校長補佐(国際交流・FD担当)

大久保 清 美

国際交流関係では先ず、10月3日～11月1日の約1カ月間、タイのキングモンクット工科大学ラカバン校の女子学生2名を短期留学生として受け入れたことをご報告します。これは高専機構とキングモンクット工科大学との間で平成23年1月に締結された包括的学術交流協定に基づくもので、日本語のできない留学生を受け入れるのは本校初の試みでした。当初は不安もありましたが、研究室での受入要請を快諾してくださった物質工学科の稲津先生、電子制御工学科の川上先生・大庭先生を始め関係教職員・学生のご尽力のおかげで、無事事業を終了することができました。なお、キングモンクット工科大学とは、来年度は本校学生をインターンシップに派遣するなど、さらに交流を深める予定です。

夏の海外語学研修は9月4日～18日の約2週間、アメリカ・シアトルにて実施しました。今年度から夏休みの時期が移行したのを利用して、航空運賃の安くなる9月に設定しました。参加学生は2年生2名（うち女子2名）、3年生6名（同2名）、4年生2名（同1名）の合計10名（同5名）でした。この詳細については、引率の英語科・鈴木久博先生による別稿の報告をご覧ください。

海外にインターンシップ等で出かける学生も増えてきました。今年度は、富山高専主催の国際インターンシップ・プログラム（英国北アイルランド）に専攻科1年生1名が参加。また、豊橋技科大主催の国際交流プログラム（インドネシア）に5年生1名が参加。ライオンズクラブ主催の青少年海外派遣プログラム（ドイツ）に専攻科1年生1名が参加しました。これらの詳細については、本人たちによる別稿の報告をご覧ください。さらに、専攻科2年

生1名が国際学会（アメリカ）において最終発表者選ばれ表彰されました。

在籍する留学生を対象とした見学旅行（箱根方面：日本文化体験他）は10月に例年どおり実施されました。東海地区5高専で実施している外国人留学生交流会（12月23日～25日、飛騨高山スキー場）にも本校留学生10名全員が参加しました。なお、10月に行われた沼津国際交流協会主催の日本語スピーチコンテストでは、C3のラディスさん（インドネシア）が見事優勝しました。

近年、国際性豊かな技術者の育成が喫緊の課題となっていますが、産業界からのこの要請に応えるべく、今年度より高専機構の特別教育研究経費をもとに、富山高専を世話校として東海北陸地区を中心とする10高専が連携し、「ロードマッププロジェクト」を展開しています。来年度中には各校の学生に、国際的に活躍する実践的な技術者になるための「ロードマップ」（行程表）を提示できる予定です。

教員FD（Faculty Development）研修会については、5月に第1回「学級経営に生かすQ-U」、7月に第2回「より良い授業を目指してー授業実践例から学ぶー」、10月に第3回「テーマ1：知財教育とエンジニアリング・デザイン教育」及び「テーマ2：沼津高専・キャリア教育構築の概要」、12月に第4回「教職員対象のメンタルヘルス」を実施しました。

さて、平成22年度より2年間、特定業務担当校長補佐として主に国際交流と教員FD研修とを担当してきましたが、これらの業務担当は、ともに時代の要請に応える形で本校に初めて置かれた役職でした。その成果のほどはまだ定かではありませんが、この2年間で一定の道筋がついたということで、来年度より国際交流については新設される「国際交流室」に、FDについては教務主事管轄にその業務を移すことにより、私の役職は発展的に解消することとなりました。2年間という短い間でしたが、ご支援ご協力ありがとうございました。



(続)沼津高専の新たな教育が
平成24年度よりスタートします
—混合学級と学際教育の導入—

校長補佐(学際教育担当)

押川 達夫

「沼津高専だより第99号」において、学際教育に関する説明を行いました。ここでは、改めて学際教育や混合学級に関する事案についてご説明いたします。

産業構造の変化等を踏まえ、「想像力に富み」、「人間性豊かな技術者の育成」という視点にたつて、教育内容を不断に見直す必要があります。このことは本校の平成21年度運営諮問会議において外部運営諮問委員からも指摘されたことです。これらの背景として、昨今の急速な産業構造の変遷のもとに、本校だけでなく工業高等専門学校の取り巻く様々な技術発展の過渡的時代に直面していると判断されます。本校は、中学校卒業の入学生に早期の「ものづくりキャリア教育」を目指し、各学科が「導入教育」と称して1年生に専門導入基礎実験（座学を含む）を実施してきました。しかしながら、エネルギー、環境、医用・福祉を重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成していくために、低学年においては、従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるように混合学級編成とし、高学年においては所属学科の基礎・応用科目と学際分野の科目を受講できるように教育課程を改定し、ひいては優秀な受験生を継続的に確保する少子化対策を目指すこととしました。本校の多くの先生方および職員の方々にご協力を得

て、この平成24年度4月より混合学級がスタートします。

産業界における人材需要、学生ニーズの変化等に対応するため、従来の学科を横断する学際分野の専門科目を教育課程に導入することとしました。学際教育は、従来より幅広い専門分野の知識と技術を備えた人材の育成を目標とします。即ち、従来の一つの専門を深く教授するエンジニア教育に対して環境・エネルギーや医療・福祉、新機能材料等の学際的分野に対応できる幅広い知識と深い専門性を備えたエンジニアの輩出が産業界から望まれていることに対応するものです。

これらの学際教育導入は本校近隣地区の企業からもその方針について賛同を得ており、さらに全国高専の中でも本校の新しい教育システムは注目されているところです。学際教育の導入は高専教育制度の特徴である進路の多様性を生かしつつ産業構造の変化に対応するエンジニアを育成するものであり、本科生の大学編入学に対しても従来通り対応できます。なお、新教育課程の学年進行に伴い、専攻科の教育課程の見直しを行う予定です。その一方、平成24年度2年生には、「ミニ研究」を実施いたします。これは、全教員が全2年生のミニ研究指導教員となり、「自ら学び、自ら課題を解決する」PBL教育を実施するものです。これらのミニ研究活動を通して、本校学生がさらに創造性豊かに成長する基盤作りを全教員が一丸となって取り組む科目です。ミニ研究結果は本校全学生の前でポスター発表することを企画しており、保護者に皆様にも公開する方向です。本文をお読みの保護者の皆様におかれましては、授業参観だけでなくミニ研究発表をご覧いただきたく、切にお願い申し上げます。



各学科から(平成23年度総評)



機械工学科の近況

機械工学科長

小林 隆志

今回、高専だより第100号の原稿を執筆するにあたり、過去の高専だよりを振り返ってみました。第50号は平成4年12月発行で、当時の工藤圭章校長が創立30周年記念講演会についてお書きになっていました。機械工学科の改組により新たに制御情報工学科が設置され、週5日制が導入された年でした。当時から20年の歳月を積み重ね、本校は今年創立50周年を迎えます。機械工学科は創立以来50年の歴史をもつ学科であり、日本の産業界を支える多くの人材を輩出してきました。今後も良き伝統を守りながら、日本の産業界を支える人材育成に全力を尽くし、新しいページを加えていきたいと考えています。

最近、写真フィルム生産の世界的企業米イーストマン・コダックの経営が破綻し破産法の申請を行ったとのニュースがありました。デジタル化への対応が遅れたことが原因とのことです。一方、富士フィルムは医薬品、化粧品など新分野への転換・多角化を進め、現在大半の売上は写真フィルム以外によるとのことです。産業構造のダイナミックさを感じるとともに、変化を察知し将来に向けての改革を推進することの重要性を感じさせられます。近年、自動車分野ではハイブリッド車はごくあたりまえになり、電気自動車も登場して、燃料電池車、水素自動

車が市販されるのも遠い日ではないかもしれません。10年後、20年後にどんな新しい技術が開発されているかを想像するのは夢のあることですが、大きな技術革新が起きその技術革新に取り残されると企業にとっては存続の危機ともなります。この春めでたく卒業式・修了式を迎えた皆さんは、このような時代を生きていることを認識しつつ研鑽を重ねられ、これからの日本の産業界を支える人材として活躍されることを祈っています。

今年度の機械工学科の卒業生・修了生の進路状況は、本科5年生が就職22名、進学11名、専攻科生は就職6名、大学院進学2名です。就職については、昨今極めて厳しい状況ですが、就職希望者は全員内定を得ました。機械工学科には日本を代表する企業や地元企業から多くの求人をいただき、産業界からの強い期待があります。在学生の皆さんは進路に関しては全く心配ありません。今は機械技術者としての拠り所となる知識・技術の習得に努力して下さい。その上で、幅広い分野に興味をもって、知識を広げて下さい。将来そういった知識が融合して、花開く時が必ず来ます。

来年度、本校の機械工作実習教育を担ってきた機械第一実習工場の改修が行われることになりました。創立50周年の節目の年に改修され新しく生まれ変わることをうれしく思います。来年のこの時期には改修後の様子をご報告できると思います。

機械工学科としては引き続き産業界の動向を注視しながら、社会の要求に応えられる技術者教育に取り組んでまいります。今後とも保護者の皆様のご理解とご支援を心よりお願いいたします。



平成23年度を振り返って

電気電子工学科長

望月 孔二

まずは、卒業・修了する皆様にはこれからますます大きく羽ばたくことを祈念いたします。また、日頃より電気電子工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜ります保護者の皆様や関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

以下、平成23年度の本学科について記させていただきます。なお、卒業生と修了生の行き先の詳細は高専だよりの別の部分に記されていますので、ここでは全体的な傾向や今年の特徴的なことといたします。

本学科の就職希望者は全員が行き先を決めることができました。高専は企業から高い評価を頂いて、本学科も400社以上から求人票を受信し、91社からご訪問を頂きま

した。しかし、そうは言っても就職は約束されたものでなく、自らの力で勝ち取ったものです。

企業が望む学生像は、まさに沼津高専の学生受け入れ方針と対応するものです。就職に必要な実力の多くは、本校で授業を通じた学習やクラブ、学生会・寮生会等で活躍することで育まれたものと思います。下級生も自信を持って本校の学生生活を送って下さい。なお、企業研究や試験対策(SPI等)も怠らないようにしてください。

進学希望者も学生全員が合格することができました。良い結果を得るのに重要なのは、高専の3・4年生の基本的な科目をしっかりと学ぶことであることがますますはっきりしてきたように思います。次年度以降に進学に臨む皆様は、前提となる高専の勉強を含めて十分な準備をお願いいたします。今は大学生の多くが大学院に進む時代です。高専卒と大学卒は社会的に差は少ないので、進学するならば是非とも大学院を意識してください。

本学科の学生が参加できるプロジェクトとして、嶋教員を中心に電動バイクに取り組んでいます。希望する電

電気電子工学科の学生は誰でも参加できます。今年度は、当初の目的の「レースへの参加」を実現することができました。今はマシン性能の更なる向上に取り組んでいます。

最後にスタッフのことを記します。長年本学科で学生指導をしてきた高橋教授は、今年度末で定年を迎えます。本学科においては学科長、本校においては総合情報セン

ター長という要職を歴任されてきました。今後は本校を離れ、ご出身の浜松市でミカンづくりを楽しむとのことです。

以上、簡単ですが学科の状況を記させて頂きました。今後も電気電子工学科の更なる発展をスタッフ一同築いていく所存です。どうぞよろしくお願いたします。



平成23年度末に あたって

電子制御工学科長
川上 誠

平成23年度の電子制御工学科長を務めさせていただきました川上です。至らぬ点多々あったと思いますが、なんとか年度末を迎えることができました。関係各位、保護者の皆様には、深く感謝いたしております。

さて、当学科の今年度卒業予定者は41名（昨年度は36名）で、そのうち就職する者が17名（15名）、沼津高専専攻科への進学が10名（10名）、大学編入学が13名（7名）、進学希望が1名（4名）となりました。当学科の教員が指導しています専攻科2年生につきましては、大学院進学が9名（東京工業大学大学院4名、奈良先端科学技術大学院大学4名、東京農工大学大学院1名）（6名）、就職が6名（3名）です。

本科生の就職に関しては、332社（昨年は297社）から求人があり、若干回復の兆しは見て取れますが厳しい状況であることに変わりはありません。しかし、高専の卒業生に対しては企業から強い期待が寄せられていることはありがたい限りです。

進学組に関しては、希望するところに合格できなかった学生もいますが、編入試験後はそれぞれの進路に向けて卒業研究に打ち込んでいる姿が見られます。また、専攻科へ進学する学生は昨年と同じ10名です。専攻科がJABEEの認定を受け、本科と合わせて7年間の教育課程

が整備されてきたことで、学習（学修）・教育環境が大学と比肩できるレベルにまでなってきたことの反映であると考えています。次年度も合格基準を満たせば、専攻科入学希望者をできるだけ多く受け入れる予定です。

昨年11月17日に開催しました学科説明会には、112組132名の保護者の皆様に参加していただきました。当日の資料は本学科の「第22回保護者説明会（第3回学科説明会）資料」としてまとめ、学生には配布し欠席された保護者の皆様には郵送いたしました。アンケートでは、学科説明会の内容についてはほぼ分かったとの回答をいただきましたが、授業や生活指導に関しては貴重なご意見を多数いただきました。今後の学科運営に生かすよう努力したいと存じます。

学生の活動では、5年生が全国プログラミングコンテストに参加し、決勝に進むも残念ながら入賞を逃しました。また、12月に開催されたA&Sフェア2011では2つの分野で6名が優秀ポスター賞を受賞しました。特にA分野（機会・電子制御・ロボット）では29件の発表があり、5件の優秀賞（最優秀1件と優秀4件）を受賞したのは全て電子制御工学科の5年生と専攻科生でした。

学科スタッフに関しては、出川講師と大沼助教の新任教員を迎え、フレッシュな風を吹き込んでいただきました。お二人には副担任、寮務教員として活躍していただきました。若い力で今後も学科を盛り立てていってくださることを期待しています。

以上、簡単ですが今年度の報告をいたしました。来年度も電子制御工学科教員一同、学生の資質向上に邁進していくつもりです。今後とも保護者の皆様方のご支援とご協力のほど、なにとぞよろしくお願申し上げます。



制御情報工学科 平成23年度を振り返って

制御情報工学科長
長谷 賢治

春陽の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素から制御情報工学科の教育・研究に多大なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。さて、この紙面をお借りして平成23年度の制御情報工学科を振り返って主なものをプロットしてみたいと思います。

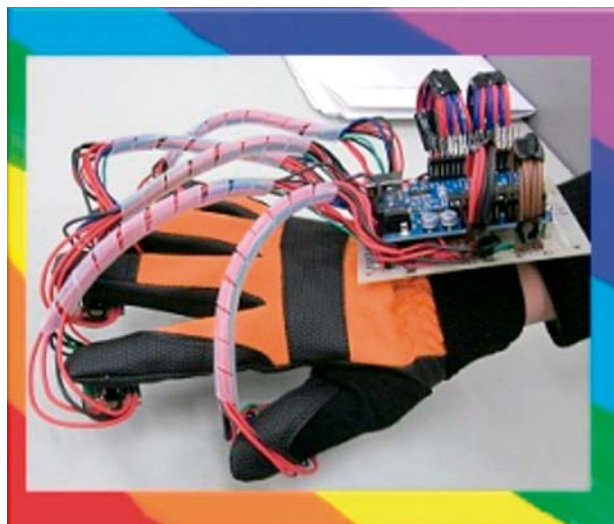
まずは、制御情報工学科5年生の進路状況からお伝えい

たします。5年生は37名中17名が就職、20名が進学となりました。就職状況は求人企業数が370社、求人倍率は約19倍でした。就職内定先は日立、日本タバコ産業、CTCテクノロジー、矢崎総業などの経営基盤が強固な企業群です。そして公務員が2名。また、進学先は20名中大阪大、東北大、北大（2名）などの旧帝大に4名。千葉大、筑波大、電通大、農工大、首都大などの国公立の大学群、そして専門学校1名です。この最終結果だけを見ると確かに凄い。しかしその裏舞台、すなわち就職・進学を勝ち取るまでの過程は苦難の道でした。誰しも挫折し、自己の甘さに気づき、そこから這い上がる。この苦難こそ彼らを成長させるもの。そう信じて、われわれは手を出しませんでした。ここがプロへの脱皮の時だからです。

次に、教育課程の見直しについてご報告いたします。平成24年度から第1年次に共通実験、第3～5学年次に学際科目群が導入されることに伴い、現行の教育課程の抜本的な見直しを行いました。制御情報工学科の教育目標を一言で言えば、「コンピュータ技術を基軸としメカトロニクスシステムの設計・製作およびデータベースを用いた情報システムの設計・構築などができる技術者の養成」です。そのために、物理・数学系を基盤に、(1) 情報系、(2) 機械系、(3) 電気・電子系、(4) システム・制御系の科目群ならびに実験・演習系科目群をバランスよく配置した、より進化した教育課程となっています。この教育課程は平成24年度新入学生から適用されます。

次に、全国プログラミングコンテスト（自由部門）への参加についてです。今年度も昨年度の創造設計作品「ContactTone」を全国プロコン（自由部門）に出展しました。創造設計2010のテーマは「世の中になくユニークな楽器をつくれ!」でした。「ContactTone」は、コンセプト自体はユニークで、一言でいえば「もう、Mozartは要らない!」。われわれの環境に、すでに楽譜が「色」という形で組み込まれており、あとは、環境から「音」を引き出すだけ。それがデータグローブ型デバイスの「ContactTone」（指先に色センサーが設置）です。そのデータグローブを手を嵌め、環境を撫でれば心地よい「音色」が引き出せるのです。製作メンバーは、山梨（S4）、松蔭（S5）、石原（S5）、増田（S5）、山川（S4）の5名の有志たちです。残念ながら無冠に終わりましたが、来場された企業人からは評価が高く、「沼津高専、制御情報工学科ここにあり」というPR活動は十分に展開できたと評価しております（写真参照）。

その他にも (1) 授業以外の学生への教育的アクション（工場見学の企画・実行、OBを招いた進路懇談会等）、(2) 中学生向けのPR活動（一日体験入学、体験授業、出前授業等）、そして (3) 保護者向けサービス（学科説明会等）を展開してきました。なぜ中学生向けにPR活動をするのか、保護者向けにサービスを行うのか。それは志高き者を入学させなければ高品位な教育は達成できないし、保護者の経済的・心理的支援なくして継続的かつ安定的な



データグローブ型デバイス「ContactTone」

教育は実現不可能だからです。だから、人（教員集団）、時間、金という貴重な資源をそこに投入する。われわれは常に、限られた資源の下で最大の教育効果を生むためのアクションを選択しそれを実行しています。

最後に、制御情報工学科のスタッフについてご報告いたします。今年度いっぱいでお二人の先生方が戦力から抜けます。一人は、相良誠教授（機械設計）です。相良教授は、五感をフル活用する製図教育、医療用工具の新企画・開発等、その足跡は大きなものです。もう一人は、市川周一教授（計算機科学）です。市川教授は任期1年の技科大一高専間人事交流の任を終え、豊橋技科大に戻られます。市川教授は、S1のプログラミング演習等を通じて、高等教育の「カタチ」を提示していただきました。その洗礼を受けた学生は幸運でした。この紙面を借りてお二人の先生に感謝の意を表します。

来年度はまた新しいメンバーを迎え再出発いたします。制御情報工学科スタッフ一同、益々、研鑽を積み、学生の資質向上に邁進していく所存です。保護者の皆様には今後とも一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



物質工学科の 今年度を振り返って

物質工学科長

芳野 恭 士

今年度も、物質工学科の教育・研究にご支援をいただきました保護者の皆様に、厚く御礼申し上げます。平成23年4月に、初々しい本科新入生42名と専攻科入学生3名を迎え、今年度がスタートしました。

今年度は、東日本大震災のため本科1年生の例年の御殿

場研修は急遽学内での研修に変更になりましたが、学科の教員の顔を覚えてもらうと同時に「中学生活とは大きく異なる環境に慣れる」ことを学科からのメッセージとして伝えました。彼らが大きく成長し、一人前の技術者として本科を卒業することを切に願っております。本科2年生は東京スカイツリーの見学、3年生はスキー、4年生は近畿方面の工場見学と、それぞれの学年でも研修が実施されました。

5年生については進路のご報告をいたします。5年生の就職希望者は15名（内定率100%）、進学希望者は28名（進学率100%）でした。就職については、高専OB先輩の力量が高く評価されている影響もあり、全員内定を勝ち取

りました。しかし、昨今の経済不況から、今後の就職活動が厳しくなっていくことは予想されます。一方、大学における本校卒業生の評価も高く、ほとんどの学生が希望の大学に進学することができました。先が読めない経済状況の中、高専卒業で就職するかあるいは進学するか、今後とも十分に学生本人と保護者の皆様と相談しながら進路決定を行っていきたく思っております。

就職する卒業生諸君へ！皆さんは物質工学科教員一同が鍛え上げた沼津高専卒の技術者として自信を持ってください。ただし、過信することなくそれぞれの置かれている場所で、技術者としての能力をより高める努力を継続することが大前提です。積極的に何でも引き受けることのできる心と身体の自己体制作りを行ってれば、き

っと困難を打破できると思います。大学進学諸君へ！広く深い知識を身につけ、総合力を高めるよう精一杯研鑽を積むことが何よりの優先事項です。本科から就職する人達の中にも、海外で仕事をするようになる者が少なからずいるものと思います。ましてや、大学を卒業する者は国を超えてグローバルに仕事をする機会が増えることを当たり前のこととして準備を怠ってはいけません。

本校においても確実に少子化の状況に進んでいく中、現在の良い進路については保護者の皆様をはじめOB各諸氏の支えがあつての物質工学科の実績と心より感謝しております。現状に慢心することなく、物質工学科のさらなる発展を教員一同築いていく所存です。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



平成23年度を 終えるにあたり

教養科長
西垣 誠 一

改めて書くことではないかもしれませんが、教養科とは各専門学科に共通する一般科目と呼ばれる教科を教える教員の集団に与えられた名称です。第一義的にはそれぞれの教員が自分の担当する授業において、学生に如何にしてその教科の内容の理解を深めさせるかが仕事といえます。しかしながら、学問的知識を付けさせることだけが目的ではありません。子供から大人へと成長していく時期に人間性を養うと申しましょうか、社会の中よりよい一員となるべく成長してもらうこともいわゆる学校教育の大きな柱です。とりわけ低学年においてその意義は大きく、学級担任をはじめ、それぞれの授業を通して教養科教員の果たすべき役割は大きいと考えております。

ところで「遠因」という言葉があります。物事が起こったとき、その直接的な原因とは言えないまでもそもそもこのことが引き金になったのではないかというようなことです。その遠因よりもっと薄い関係といえますか、一見何の関係もないことからあることが起こったというようなことにご経験がおありでしょうか。例えばずっと以前ですが、先輩の先生に「学校で工事などがありざわついていると事件が起こる。」など言われたことがありました。「工事」と「事件」は何の関係もなく、偶々両者があっただけというのが普通の見方かもしれませんが、実は何らかのつながりがあるのかもしれないという思いもあります。前号でも書きましたが、近年学校教育を取り巻く環境は大きく変わってきています。「評価」ということが学校自体そして教員個々に向けられ、それに対応することに追われています。そのようなことが上記しました学校教育本来の目的への尽力を疎かにする「遠因」と

なつてはならないと自戒しているところです。

閑話休題、3月をもって沼津高専教養科を去られる先生方をお知らせします。

哲学の野澤正信特任教授が退職されます。野澤先生には定年退職後2年間のフルタイム再雇用制度により引き続き哲学等の授業を担当していただいておりますが、その期間も本年度までということになりました。昭和56年3月に着任されて以来32年間の長きにわたり本校の発展に尽くしてこられました。今後は非常勤講師としてお願いすることとなっております。

もうひとつ、国語の坂本信男教授が退職されます。坂本先生は昭和62年4月に着任されて以来25年の長きにわたり沼津高専の教育に力を尽くしてこられました。今回100号に達しましたこの「高専だより」をはじめ校務として広報関係の仕事にもご尽力いただきました。今後は沼津高専の教育からは離れられますので、長年一緒に仕事をしてきた私としましても残念ではございますが、ご健勝をお祈りしたいと思います。

以上雑感とお知らせまでですが、教養科教員一同今後とも学生教育のため一生懸命頑張る所存ですので、よろしく宜しくお願いいたします。



部 活 動

第46回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸上	男子砲丸投	11位	E3	杉山元気	
バドミントン	女子団体の部	3位	—	—	
	女子個人の部 シングルス	2回戦敗退	C3	米山沙弥	
	女子個人の部 ダブルス	1回戦敗退	C4 C3	佐野友美 米山沙弥	
サッカー		1回戦敗退	—	—	
水泳	男子800m自由形	13位	E5	林弘樹	
	男子100m平泳ぎ	予選敗退	D3	村串憲一郎	
	男子100m自由形	6位	C4	鈴木卓磨	
	女子200mリレー	6位	C2 C1 C3 C3	渡辺彩夏 安藤知佳 前田英里奈 芹澤梨香	

第49回東海地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸上	男子800m	3位	D3	廣野湧也	
	男子走幅跳	3位	D4	伊庭達哉	
	男子砲丸投	1位	E3	杉山元気	(全国大会出場)
テニス	男子団体の部	3位	—	—	
	男子個人の部 ダブルス	2位	M4 D4	福田英史 福梅原毅	
バドミントン	女子団体の部	1位	—	—	(全国大会出場)
	女子個人の部 シングルス	1位	C3	米山沙弥	(全国大会出場)
	女子個人の部 シングルス	3位	C4	佐野友美	
	女子個人の部 ダブルス	1位	C4 C3	佐野友美 米山沙弥	(全国大会出場)
空手道	団体戦 組手の部	3位	—	—	
	団体戦 形の部	2位	—	—	
サッカー		2位	—	—	(全国大会出場)
柔道	男子個人の部 60kg級	3位	C3	猪飼航一郎	
硬式野球		3位	—	—	
剣道	男子団体の部 勝抜戦	3位	—	—	
水泳	総合	2位	—	—	
	男子総合	2位	—	—	
	女子総合	2位	—	—	
	男子800m自由形	1位	E5	林弘樹	(全国大会出場)
	男子200m平泳ぎ	2位	D3	村串憲一郎	
	男子200m平泳ぎ	3位	S3	川上洋平	
	男子200m背泳ぎ	3位	S3	川口大地	
	男子200m自由形	2位	C4	鈴木卓磨	
男子50m自由形	2位	D5	杉山和暉		

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
水 泳	男子400mメドレーリレー	2位	S3 D3 E5 C4	川 口 大 地 村 串 憲一郎 林 弘 樹 鈴 木 卓 磨	
	男子100m平泳ぎ	2位	D3	村 串 憲一郎	(全国大会出場)
	男子100m背泳ぎ	3位	S3	川 口 大 地	
	男子100m自由形	2位	C4	鈴 木 卓 磨	(全国大会出場)
	男子800mリレー	3位	D5 C4 D3 E5	杉 山 和 暉 鈴 木 卓 磨 村 串 憲一郎 林 弘 樹	
	女子50m背泳ぎ	3位	C3	芹 澤 梨 香	
	女子50mバタフライ	2位	C2	渡 辺 彩 夏	
	女子100m自由形	2位	C2	渡 辺 彩 夏	
	女子200mリレー	1位	C2 C1 C3 C3	渡 辺 彩 夏 安 藤 知 佳 前 田 英里奈 芹 澤 梨 香	(全国大会出場)
バスケットボール	男子の部	3位	—	—	
	女子の部	3位	—	—	
弓 道	団体の部	2位	—	—	
	個人の部	2位	D2	筧 雄一郎	

全国大会出場報告

全国大会出場報告

サッカー部 塚 本 優

東海大会が沼津、全国大会が千葉県市原市で開催されました。

東海大会

沼津2-0岐阜、沼津2-2豊田

沼津9-0鳥羽、沼津1-2鈴鹿

全国大会

沼津1-3新居浜

今年の東海大会は沼津で開催ということもあり、多くのOBや父兄の方が応援に来てくださいました。たくさん声援を受け、気合十分で臨んだ第一試合は岐阜高専に快勝、第二試合は豊田高専と引き分けとなりました。ライバルである豊田高専とは毎年激しい試合となります。試合は引き分けで終わりましたが、主力選手が怪我をしまい、メンバーの気持ちは曇りかけていました。ホテルのミーティングで気持ちを切り替え、2日目に備えます。

2日目、得失点差の勝負になると見込み、攻撃的なサッカーで挑んだ鳥羽商船との試合では大量得点に成功しました。勢いに乗りますが、それが空回りとなったのか鈴鹿高専に惜敗してしまいました。

結果、勝ち点で豊田高専が上回ったため豊田高専が優勝、沼津は準優勝となりました。過去、先輩方は東海大会で4連覇してきました。新チームとなった時に掲げた東海大会優勝という目標を逃し、5連覇を達成できなかったことから、全国出場が決まったにもかかわらず悔し涙が流れました。この悔しさを全力で全国大会にぶつけるしかありません。全国大会で借りを返そうと誓い、一生懸命練習に励みました。

全国大会の初戦は去年準決勝まで勝ち進んだ新居浜高専です。前半は相手の勢いに押され2点を許すも、PKを奪い1点取り返し前半は終了しました。ハーフタイムでは戦術的調整を行い、気持ちを入れ替えて後半での逆転を狙います。後半序盤はこちらのペースで試合が進み、何度か相手のゴールを脅かすも、ダメ押しの1点を許し残念ながら初戦敗退となりました。

仲間と共にサッカーに打ち込んだ日々は、とても充実していました。仲間との衝突やすれ違いもありました。最上級生である5年生が編入のための勉強や就活によってあまり練習に参加できない時期もありました。しかし、最後はみんなでひとつになり目標に向かったことは今で

は良い思い出です。来年は例年と異なり4年生が最上級生となります。苦勞することが多々あると思いますが、今年とは違うサッカー部を見せてくれると期待しています。今後ともサッカー部の応援をよろしくお願ひします。

全国大会に出場した女子200mリレー

水泳部

前 田 英里奈

昨年度の全国大会は沼津高専が会場校であったために、私は会場校枠で全国大会に初めて出場しました。その時に、今度はみんなそろって実力でこの場に立ちたいと強く思いました。ちょうど今年度より、女子のリレー種目が学校単位で全国大会に出場できるようになりました。昨年度までの全国大会の女子リレーは、個人競技に出場する選手で地区ごとにチームを組んで争うオープン競技でしたが、今年度からは沼津高専チームとして全国大会に行くことができるようになったのです。そこで私たちは、東海地区大会の女子200mリレーで1位になって、みんなそろって全国大会に行くことを今年度最大の目標としました。その中には、お世話になった先輩方に全国大会出場という形で感謝したいという気持ちもありました。

目標を決めた私達は、まず個人のレベルを上げるため練習に打ち込みました。今までよりさらに技術力、体力、精神力を効率的に上げられるメニューを考えてもらい必死に食いついていきました。フォームについてもコーチに私たちの泳ぎをカメラで撮ってもらい、その映像を見ながら指導してもらいました。また昨年は後から追い上げる作戦にもかかわらず離されたまま抜かすことができなかったため、今年は逃げ切る作戦に変更し、泳ぐ順番もその作戦に合った順番にしました。

ついに東海地区高専大会の日がやってきました。本番前日の夜水泳部全員でミーティングを開き、目標を確認し合いました。女子部員は全員、個人種目の目標とともに、リレーで1位になることをあげました。このとき私たちの思いが1つになったことを感じ、気合いが入りました。

東海地区高専大会で女子200mリレーにエントリーしたのは、豊田、鈴鹿、沼津の3校です。豊田高専は昨年の優勝校で、これまで何回も優勝しています。鈴鹿高専には県優勝クラスの1年生が2人も入っています。この2校と争うことに不安も大きかったですが、それよりも1位になりたいという気持ちの方が大きく不安は口にしないようにしました。

大会当日、私たちはレース時間ギリギリまでリレーの引き継ぎ練習をくり返しました。入場前、気合いを入れるためにメンバーで円陣を組んで1位への思いをさらに強めました。

レースは、1泳の渡辺が県優勝クラスの鈴鹿の選手に離

最後になりましたが、監督の坂井さん、コーチの濱村さん、顧問の先生方、マネージャー、OBの先輩方、応援して下さった父兄の方々々に心より感謝の意を表したいと思っています。ありがとうございました。

されることなくついていき、2泳の安藤が1位に躍り出て、3泳の私とその差を広げることができました。4泳は鈴鹿のもう一人の県優勝クラスの選手との争いでしたが、芹澤が追いつかれることなく逃げ切り、ゴールしました。結果は1位、タイムは2分15秒02でした。1位にこだわり続けていた私達は満足でした。私は高専で水泳を始めたので、1位という順位はこれまで夢のまた夢のように思っていました。初めて1位の表彰台に登ったとき、その場にいるのが信じられなくてうれしくて涙が止まらなかったのを覚えています。

全国大会への出場権を手にした私たちが次に立てた目標は、1人34秒か35秒以内で引継ぎをして、自分たちが東海大会で出したタイムを上回ることと、全国大会という場を思い切り楽しむことでした。残念ながら女子部員は学校に宿泊できないために合宿に全員は参加できず、個人の練習が主となりましたが、目標に向かってそれぞれが努力しました。

全国大会当日、先輩がデータ化してくれた地区大会のタイムを見て、6位以内を目標としました。大会では一人一人が力を出し切って泳ぎました。結果はみごと6位でタイムは2分14秒28でした。夏休みに満足なチーム練習ができなかったにも関わらず、地区大会よりもタイムを縮めることができ、私達は自分たちの泳ぎに自信を持つことができました。

今年、全国大会と地区大会を通じて感じたことは3つあります。1つ目は1位という順位の重みについてです。私は今年初めて地区大会で1位になり、地区の代表者として大会に出場しました。そのプレッシャーは自分が1位になってみないと分からないものでした。しかしそれと同時に1位は、自分自身に希望と自信を与えてくれました。地区大会のトップに立ち全国大会に出場することで、自身の可能性を実感することができました。2つ目は先輩方のありがたみについてです。高専で水泳を始めて3年間でここまで成長できたのは本当に先輩方のお陰だと感じました。指導や練習のサポートなど先輩方に助けられた部分はたくさんありました。卒業してしまう先輩とはもう一緒に泳げないと思うとさびしく感じます。3つ目は全国大会の魅力についてです。全国大会は選抜されたレベルの高い選手が集まります。その中で泳ぐということは自分自身の成長にも繋がると強く感じました。来年度も全国大会出場を目標として、好きな水泳を続けていきたいと思っています。

バドミントン部女子団体戦優勝

バドミントン部

佐野 友美

この夏、バドミントン部は女子団体戦の部で初めて東海地区高専体育大会を制し、3年連続で全国高専体育大会に出場することができました。また、全国大会では女子団体戦で3位入賞という好成績を残すことができました。個人の成績は、東海大会で女子ダブルス優勝、女子シングルス優勝及び第3位という結果でした。

今年度は私自身の練習不足を感じ、東海大会での優勝は難しいと思っていましたが、東海大会で優勝し、全国大会へ出場することを目標に練習してきました。優勝したい、負けられないという気持ちは大きく、勝つための練習をコーチと部長、部員で考えて実践しました。個人戦の練習はもちろんのこと、団体戦で東海大会に優勝するための練習によりいっそう力をいれてきました。バドミントンの団体戦は、団体戦と言っても最終的には個人の戦いになります。仲間たちの応援と個人の精神力の強さがないと試合は勝てません。私は今年度の高専大会を最後に、部活動に区切りをつけようと考えていたので、悔いのないよう自分自身に負けないよう練習に取り組みました。

今年度は、沼津高専がバドミントン競技の主催校となり東海大会が行われました。東海大会開催にあたり、学校関係者や沼津市バドミントン協会の皆様、OBやOG、家族、友達など多くの方々への大きな支えや応援を感じました。皆さんの応援が心強くもありプレッシャーでもあり、その中での試合は白熱しました。優勝するためには2日間にわたる数多くの試合をこなさなければなりません。この期間に怪我を負った選手もいますが、私たちは一人一人の実力を十分に発揮することで優勝に繋げることができました。今年度も優秀な結果を残せ、この感動を部員と味わえたことはとても嬉しかったです。そして無事に東海大会を優勝して終えることができたのは、私たちの力だけでなく、私たちを支えてくれた多くの方々のおかげだと身に沁みて感じ、とても感謝しています。私は今年度の全国大会出場で部活動を最後にしようと思っていましたが、続けることの大切さを今一度考えさせられました。できることなら来年度も仲間と共に練習に励み、全国大会出場という同じ目標に向かって頑張りたいです。そして来年度の高専大会も多くの方々との協力の上で開催してほしいと思います。

私たち部員は感謝の気持ちを忘れずに持ち、大会で日々の成果や努力を発揮できるように、1年間かけて練習を積み重ねていきます。今後もバドミントン部の応援をよろしくをお願いします。

行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

感謝をこめて

体育祭実行委員長 電子制御工学科4年

伊藤 彩花

2011年10月20日に沼津高専体育祭（スポーツ大会）が実施されました。これは、沼津高専で全クラスが参加する数少ないイベントの1つです。昨年度から委員会がスタッフ制に切り替わったこともあり、主な運営役となる体育祭スタッフの人数は、わずか31人でした。そうした状況の中で、当初は「たった31人で1000人を楽しませるような体育祭を作りあげることは難しいのでは？」という不安を強く感じていました。しかし、実行委員長になってからは「体育祭を楽しみにしてくれている学生が大勢いる」ということを実感するようになりました。そして次第に、不安な気持ちよりも体育祭を楽しみにしている学生の期待に応えたい！という気持ちのほうが大きくな

っていきました。

わたしは、自分の中で“各クラスにとって、思い出に残るような体育祭にする”という大きな目標をたてました。これは体育祭での一番の意義とも言えると思います。この重大な目標を達成するためには、思い出となるような“場”、つまり各クラスが楽しめる“場”を提供できなければなりません。そのためにわたしは、体育祭前後の数ヶ月間、休み時間・放課後・家での多くの時間を使って、いろいろな仕事をこなしていきました。その仕事のほとんどが初めての体験で、初めて書く書類や手続きなどには戸惑いもありました。しかし、他のスタッフが手伝ってくれたり気遣ってくれたりしたことが支えとなり、なんとか最後までやり遂げることができました。たったの31人でしたが、自分たちが楽しむことよりも参加者たちに楽しんでもらうことを優先して、少数精鋭メンバーで頑張ってくれました。大半のクラスにとって思い出に残る体育祭にすることができたのは、100%みんなと一緒に頑張ってくれたおかげだと思っています。スタッフ全員に感謝しています。ありがとう。また、多くの関係者の方々にご協力いただいたことにも、重ねて感謝

いたします。

最後に、参加してくれた方々にも感謝を伝えたいと思います。わたしたちが楽しめる“場”を提供できたとしても、参加する側が体育祭を「楽しもう!」と思ってくれなければ、楽しい体育祭にはなり得ません。ですから、わたしたちが提供した“場”で楽しんでくれている様子を見ることができたときは、本当に嬉しく感じました。参加する側として体育祭を盛り上げてくださった方々に、

高 専 祭

第46回高専祭を終えて

高専祭実行委員長 制御情報工学科5年

土 屋 究

第46回沼津高専高専祭は11月5日(土)と11月6日(日)にかけて行われました。今年の高専祭は「燦SHINE」をテーマに掲げて行いました。このテーマにしたのは、大きな目標として高専祭に来てくださった人たちに心行くまで楽しんでほしいという思いがあったからです。祭りは自分たちが楽しむのはもちろん、お客様に楽しんでもらうのが目的です。そこで、スタッフが明るく輝き、来てくださったお客様を楽しませ笑顔で帰ってもらう。そんな思いを込めてこのテーマに決めました。高専祭当日は、スタッフ全員が明るくしっかりと活動し、子供から大人まで多くの人が楽しみ笑顔になった素晴らしい高専祭になりました。

今年も昨年同様、多くの学生が高専祭に参加できるような企画をしたいと思っていました。昨年は全体写真と

心から感謝しています。さらに、アンケートにもご協力くださりありがとうございました。このアンケートによって得た貴重な意見を無駄にすることなく、来年度以降の体育祭に反映していけるよう最大限の努力を重ねてまいります。

たくさんの感謝を示しつつ、来年度も皆様のご協力をよろしく願いいたします。

いうことで多くの学生が参加し、成功したといえました。写真を撮ることで高専での思い出にもなり学生の心に残ると思ったので、今年も全体写真を撮ることに決めました。撮影が準備日でしたので、前日の昼間から下書きを行い、教職員の方々と本部スタッフの協力のおかげで、その日の夕方には書き終え、撮影日にはほぼ全学生が集合し撮影することができました。また、高専祭も2日目に雨が降るというアクシデントこそありましたが、無事成功で終わることができました。雨が降るとなった時の、各長の対策の行動の速さには感動するものがありました。

今年の高専祭が成功したと言えるのも、多くの教職員の皆様、各長、スタッフの協力あってこそだと思います。本当にありがとうございました。

高専祭を通してたくさんの人をまとめることの大変さ、その大切さ、辛いときに側にいる仲間大切さを学びました。高専祭は、スタッフ活動を通し勉強以外のたくさん大切なことを経験し学べる素晴らしい場だと思っています。

最後に今年高専祭に関わってくださった皆様が楽しんでくれて、来年以降の高専祭にも来てくださることを期待しています。



3年スキー合宿研修

3年スキー合宿研修報告

3年学年代表

芹澤弘秀

3年合宿研修（スキー研修）が1月23日から2泊3日で行われました。学生にとって有意義かつ安全性の高い研修となるよう日程等の変更が昨年度行われましたが、今年度もスキー教室をふじてんスノーリゾート（山梨）で2日間行い、宿泊場所の国立中央青少年交流の家（御殿場）では就職・進学に関する研修をクラス別で二晩、最終日に全体で半日実施するという密度の濃い内容となりました。3年生にとって学年末は1年後の就職活動に向け自分の進路を真剣に考え始めるべき時期であり、卒業後の目標設定をこの時期に行うことが4学年での学習意欲向上、そして5学年での適切な進路選択に繋がります。ところが、将来の夢がなく自分が何をやりたいのかもわからない学生が多いということが担任会で話題となり、研修の第1目的を「高専生活の意義を見直し、卒業後の目標を立てる」とし、それを達成するためにクラス別研修では自分の過去を振り返り将来を考える内容にしました。さらに、蓮實学生主事の発案により職業の適性を調査する職業興味検査（VPI）の実施も研修内容に盛り込みました。また、「己に挑戦し、物事を成し遂げる大切さを学ぶ」「親睦を深め、お互いを認め合う」ということを第2、第3の



目的とし、学生達はスキー教室や宿舎での集団生活を通してそれらの達成を目指します。このように学生にとって実り多き研修となるよう、今年度も入念に準備を行い研修当日を迎えました。

初日と2日目は曇り空でしたが、週末に降った雪のおかげでグレンデの状態は非常に良く、197名の学生がスキー教室に参加しました。2日目は前日夜の降雪により宿舎からスキー場までが雪一色となり、到着の遅れを心配しましたが、予定通りスキー教室を実施することができました。両日も学生達は転びながらもスキーを楽しんでいる様子で、初心者が多くが2日目には中級コースを軽々と滑り、初級班の中には最も難易度の高い上級コースを転ばずに滑った者もいたと聞き、上達の早さに大変感心しました。就職等に関する研修も予定通り実施でき、3日目の全体研修では増田キャリアカウンセラーの指導のもと、前日のVPIの結果を各自分析しました。また、大島副校長、遠山専攻科長からは進学やJABEE等に関する講演を頂き、4学年での心構えを意識する上で非常に有益なお話であったと感じました。研修後の感想文によれば、多くの学生が楽しく充実した3日間を過ごせたようで、携帯電話もテレビもない不自由な環境でしたが、学生一人一人がそれぞれのレベルでスキーに挑戦し、自分の将来を考え、友と大いに語り合うことができたものと思います。改善点は多々ありますが、怪我や病気もなく参加者全員が無事研修を終了できたことが何よりでした。

最後に、今回の研修にあたり、保護者の皆様、関係教職員の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。



ロボットコンテスト2011

これぞ高専の部活 ～全国への扉を開け～

ロボコン部顧問

青木悠祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。保護者の方をはじめ、OB・OGの皆

さん、地域の方から大会が近付くにつれ、お声掛けいただけることをとても嬉しく思っております。

さて、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト、通称「高専ロボコン」の今年度の競技課題は、「ロボ・ボウル」でした。これは2足歩行のオフENSE・ロボットが、学生から受け取ったボールをディフェンス・ロボットをかいくぐり、チームメイトの学生に向けてノーバウンドでタッチダウンパスを送るという競技で、タッチダウンパスが成功するまでのタイムを競うロボットと人間がともに戦う新しい競技となりました。

この競技に対して本校からはAチーム「CC桜エビ茶N(シーシーサクラエビちゃん)」、Bチーム「山rise(サンライズ)」の2チームが出場しました。どちらも静岡の特色である桜エビ、お茶、富士山を意識し、見た目にも動きにもインパクトのあるロボットを製作しました。しかし結果としてAチームは初戦突破したものの満足な結果が出せず、Bチームはトラブルにより初戦敗退となってしまいました。

第1回大会優勝校である沼津高専が最後に全国大会に出たのは2006年。しばらく全国大会から遠退しているため、部員達は「今年こそは！」と言い続けています。特に今年度は、この文章のタイトルになっていますように「これぞ高専の部活～全国への扉を開け～」のキャッチコピーを決め、大会時に着用するツナギを自分たちでデザインし、これまで挑んでいなかった新しい技術を取り入れるなどとても精力的に活動しておりましたので、試合で負けた直後から一時期は大変落ち込んでおりました。しかし気持ちを切り替え、現在は3月に開催される複数の高専が集まって開催される「交流ロボコン」に向けて新体

制となって動き出しました。「悔しいから来年も続ける」と引退を撤回した頼もしい部員もいます。新体制を決めるにあたり反省会がすぐに開催され、普段は大人しい部員が大きな声で自分の思いを伝えていたのも、体制に対して激しい議論が交わされたのも、学生の強い思いが出ていたように思います。

今大会の結果は学生達にとって本当に悔しかった。だからこそ次に進めます。大きくジャンプするには、その直前で大きく沈み込み力を蓄えることが必要です。今年は悔しさという大きな力を蓄えました。

来年に向けてもう動き始めています。次こそはみんながうれし泣きする結果を目指して。「高専と言えばロボコン」、花形であるこの部活に所属しているメンバーは文字通り「アルミ色の青春」を日々送っています。4月に入学してくる1年生の中に全国出場に向けて一緒に活動してくれる仲間がいることを楽しみにしています。

今後ともロボコン部へのご声援をどうぞよろしく願います。

2011年沼津高専ロボコン部について

ロボコン部部长 電子制御工学科3年

片山量弥

2011年は沼津高専ロボコン部にとって大きな変革の年でした。今年度はロボコン部の活動に例年と違った点が多くありました。私はその中でも特に大きく違った点が2つあると考えています。

1つめに、目標がしっかりと定められたことです。今年度は年度の始めにまず目標を全国大会出場に決めました。そうすることで部内共通の意識が生まれ、みんなで同じ目標に向かって進むという形をつくるのが出来たと思います。これは当たり前のようにとても大切なことです。なぜなら、全国大会に行く方法は競技に勝つことだけではないからです。ロボットコンテストでは全国大会に行く方法が2つあります。1つ目は地区大会で優勝すること、もう1つは地区大会で審査員から全国大会への推薦をもらうことです。この推薦というのは必ずしも強いロボットに与えられるものではありません。そのロボットのアイデアがどれだけ独創的か、観客をわかせる能力に富んでいるか等、競技とは関係のない観点からの評価も含まれています。つまり勝つことと全国大会を目指すことはイコールではないということです。ロボットコンテストに

出るにあたり、勝つためのロボットと推薦をもらうためのロボットではコンセプトからしてそもそも異なったものになるので、当然設計段階から違いが出てきます。そのため、最初に部活動目標を決めたのは今回の良かった点に挙げられます。

2つめに、東日本大震災の影響によって夏の合宿が出来なかったことです。毎年ロボコン部ではロボットの作成の為に夏休みに2～4週間程度の合宿を行っています。4月にその年のルールが発表されて、大会は大体10月頃に行われるので6カ月あるのですが、放課後と休日だけだと毎回製作の時間が大幅に足りません。その不足を補うために毎年夏の合宿を行っているのですが、今年はそれが出来ませんでした。結局自宅から通学ができる部員だけで夏休みは作業したので、明らかに人手が足りませんでした。これに対しての目立った改善策もなく、結局特定の人たちが遅くまで作業をする等頑張っても時間が足りませんでした。これは今回の悪かった点に挙げられます。

その他にも、ロボットコンテスト2011ではアイデア出し等例年と違った点が多くありました。しかし、沼津高専ロボコン部は思い通りにロボットを動かすことが出来ず、全国大会に出場することは出来ませんでした。今回の大会で変わったことの中で良かった点を引き継ぎ、悪かった点を改善していくことで、これからも改善を続けていくべきだと私は思います。目標を達成するべく、これからも日々部活全体で行動していきたいと思っています。

その他イベント

東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト優勝報告

スピーチで得たこと

制御情報工学科5年 赤 沼 亮 介

まず初めに、スピーチコンテストに出場するにあたって指導して下さった教員や私がスピーチに専念できるよう様々な手配をして下さった職員の皆様、本当にありがとうございました。昨年の11月に私は東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテストにおいて優勝を収めることができました。

私は夏休み明けから毎週1時間ネイティブの先生に一对一でスピーチの指導をしてもらいました。先生は「不自然なジェスチャーをするくらいならしないほうがいい」と仰っていました。4年生の時にも別の先生に指導してもらいましたが、その先生は「身振り手振りを大きくすると説得力が強くなる」と仰っていました。そこで私は、2つの教えを取り入れるため試行錯誤を繰り返しました。いつも金曜日の放課後に指導してもらっていたのですが、練習をしていくうちにその時間が待ち遠しく感じるようになりました。

スピーチコンテスト当日を迎えると、思ったより緊張はしませんでした。しかし、いざ自分のスピーチの番が回ってくると、心臓が飛び出してくるのではないかとというくらいドキドキしてしまい、うまくスピーチなどできないと思うほど緊張していました。

スピーチのテーマは「授業はどうあるべきか」。そもそも私は勤勉な学生ではなく、やりたいことをやればそ

れでいいと思っている学生です。しかし、今まで私が受けてきた授業の中には「楽しい！もっと知りたい！もっとできるようになりたい！」と心から思える授業がありました。その授業はほかの授業とはどう違うのか考えたとき2つのことが浮かんできました。この2つのことをほかの学生にも伝えたいと思いスピーチにまとめました。せっかくなので英語でその2つを説明したいと思います。

The first thing occurred to me is the importance of motivation of both students and teachers. Students must come to class thinking “I really want to learn from this teacher about this subject!” Likewise, teachers must come to class thinking “I want to teach these guys about it!”

The second thing occurred to me is the need to show the benefits of taking the class. The most powerful way of showing the benefits is to make them experience the usefulness of the subject.

要約すると、「生徒と教師両方の気持ちが必要だということ」、「授業を受けるとどんなメリットがあるのか示すこと」です。

この2つはまじめな内容なので、スピーチを聞いている人はきっと退屈をしてしまうだろうと思い、前半部分にウケを狙ったパートを作りました。つまらない先生と面白い先生を演じてみるという試みです。実際に本番でウケるか心配でしたが、自分が予想していたよりもたくさんの方が笑って下さったので自信が付き、スピーチを進めることができました。また「スピーチって、人に伝えたいことが伝わるって、こんなに楽しいものだったのか!」と感じました。自分の中で最高のスピーチをすることができたと思います。この文章を読んでスピーチに興味を持っていただければ幸いです。

アメリカ・シアトル語学研修報告

アメリカ・シアトル語学研修&異文化体験

教養科 鈴木 久 博

9月4日から18日にわたり、学生10名がアメリカ・シアトルでの語学研修&異文化体験に参加しました。これは、シアトル市近郊に住むアメリカ人宅にホームステイしながら、昼間は語学学校で英語を勉強したり、観光地やショッピング・モールなどを訪れ英語を実際に使う訓練をしたりして異文化に触れるという研修です。全体として大きなトラブルもなく、学生たちは概ね充実した時間を過ごすことができましたようです。

ホームステイは、異文化を身をもって体験するのに非常に効果的です。不便なこと、驚いたことなども様々な

あったようですが、学生たちは皆頑張って異文化になじもうと努力しました。最初はホストファミリーの英語がわからなかった学生も次第に英語が理解できるようになり、コミュニケーションができる喜びを体験しました。ホストファミリーのために何かしたいという学生たちの積極的な姿勢も本当に素晴らしいものでした。日本の文化を懸命にホストファミリーに伝えようとし、家族の一員として家事も分担しました。

語学学校では、学生たちが学力に応じていくつかのクラスに分かれ、世界各国から英語の勉強のためにやってきた外国人と同じクラスで勉強しました。クラスで自分が唯一の日本人という場合もあり、当然のことながら英語での意思疎通が要求されました。また、他国の学生たちが英語力が不十分なのに積極的に講師に質問する姿に驚き、刺激された学生もいました。そのような場合、日本人なら大抵恥ずかしがって黙ってしまいがちですが、海外ではそのような姿勢は通用しません。それに気づいた

けでも貴重だったと思います。

シアトルは市内や近郊に多くの見所があります。スターバックスの一号店や、100年以上の歴史を持つマーケット、イチロー選手が所属するマリナーズの本拠地などです。日本人が多く住む地域には日本のものを売っているスーパーもありました。学生たちは、自分のほしいものを買うために、英語を使って一生懸命に努力していました。帰国前には全ホストファミリーを招いてパーティーを

開きました。学生たちは、寸暇を惜しんで練習した英語の歌を披露したり、ゲームを英語で説明して皆で楽しんだり、お好み焼きを作ったりしてたいへん喜ばれました。

2週間という短い研修であり、思い通りにならなかったこともありましたが、学生たちの前向きで積極的な姿勢ゆえに、充実したものになりました。この研修が参加した学生たちの今後の人生において大きな影響を与えるものになると確信しています。

海外体験報告

豊橋技術科学大学主催大学生交流プログラムに参加して

電子制御工学科5年 宮田昌輝

9月17～27日まで豊橋技術科学大学主催の国際交流プログラムに参加し、インドネシアのバンドン工科大学で「より安全で持続する未来を目指して」というテーマのもと、豊橋技術科学大学(12人)・岐阜高専(1人)・バンドン工科大学(約50人)・マダニヤ高校の学生(3人)と英語でのディスカッションを行ってきました。

ディスカッションでは、日本人2人とインドネシア人5人のグループに分かれ、自然災害に対し、私たち若い世代ができることを話し合いました。インドネシアでは避難訓練などの地震等の自然災害に対する教育がほとんど行われておらず、日本との意識の違いに驚かされました。また、インドネシアはイスラム教が大半であることから一日5回もお祈りをしており、文化・宗教の違いが体験できました。

今回の交流プログラムが私にとって初めての海外でしたが、非常に有意義な時間を送ることができました。このような貴重な機会を設けてくださった豊橋技術科学大学・バンドン工科大学に深く感謝いたします。

北アイルランドでの海外国際インターンシップに参加して

制御・情報システム工学専攻1年 杉山隆介

今回、富山高専専攻科の皆さんが行っている北アイルランドでのインターンシップに参加させていただきました。インターンシップの内容は、現地の大学(SERC)での2週間の語学研修および2週間の実務訓練でした。語学研修では、英語での会話やコミュニケーションの行い方を、実務訓練では工学的な内容(CAD、アームロボットキットの組立て・制御など)の授業を英語で受けるとい

うものでした。工場見学も行い、Coca-Colaやウイスキー工場へ行き英語での説明を受けました。

生活面でも皆で一軒家を借り、買出しや自炊をするなどで多くの経験をすることができました。土日には先生方の案内でジャイアントコーズウェイや教会など観光地を巡り、平日にもフットボール、ショッピング、アイススケートなどを行い、現地の学生や牧師さん、先生方など様々な人達と交流することができました。

最後にこの場を借りて今回のインターンシップをサポートしてくださった皆様に感謝の意を表したいと思います。

海外インターンシップ報告

制御・情報システム工学専攻2年 早苗駿一

私は高専機構主催海外インターンシッププログラムに参加し、2011年3月1～20日に工作機械メーカーである森精機製作所の関連会社のDIXI Machines(スイス)にてNCプログラミング実習や工作機械の製造工程見学等の就労体験を行いました。

フランス語圏で研修を行ったため、現地スタッフも全員が英語を話せるわけではなく、ボディランゲージで

意思疎通を図ることもありました。言葉は通じずとも技術的な要素は互いに理解することができ、技術は万国共通であると実感しました。

日本と海外の違いは授業で学びますが、現地でその違いを体験して、今までと異なる印象を受け価値観が変わったように思います。例えば、スイスの労働スタイルは日本と大きく違います。スイスでは家族と過ごす時間を重要視するため、朝早くから出勤し残業を極力しません。自分の常識は場所が違えば常識ではない、ということ強く感じ、自分を見つめ直す良い機会となりました。

今回の就労体験にあたり、森精機製作所を始め多大なる協力を頂いた方々に感謝いたします。

How to Become A Global Engineer 参加報告

世界で活躍するために 本当に必要なこと

物質工学科5年 上野翔也

去る2011年9月15日から22日の間、私は"How to become a global engineer"と呼ばれる集中講義に参加しました。この講義は世界を意識した思考と姿勢を育て、国際的な受信・発信能力を養成することを目的に、英語を母国語とする外国人講師を招いて英語で進行する授業です。授業はグループ行動と外部講師を招いた講演により行われ、講師と積極的にコミュニケーションをとり、グループ行動でリーダーシップを発揮して積極的な役割を担った者が高い評価を得るのですが、この評価において高度な英語力は必要としないという普通の授業と大きく異なったスタンスで行われました。

グループ行動は、与えられた課題に対してまず一人で考え、次にその意見をメンバーに提示して議論し、グループ内で良いと思われる意見を抽出し、それをグループ内の代表者がプレゼンテーションをするといった流れでした。もちろん議論もプレゼンテーションも英語で行われました。与えられた課題としては“日本の教育システム、特に高専を日本に訪れたことのない人にどのように説明するか”、“国際的な技術者とは何なのか考える”、“特定の商品に対する強み、弱点、販売機会、懸念事項を考える”等がありました。

外部講師を招いた講演は電力関連、重電、重工業を主たる事業内容とする株式会社ABBから講師2人を招いて

行われました。ABBの紹介に始まり、日本とヨーロッパの違い、積極的なコミュニケーションの大切さなどを講義していただきました。

今回の集中講義では、課題に対する解決案も、意見のまとめも、最終的な決定事項も全て英語で考え英語で記述しました。さらに講演でも英語でメモをとりました。この一連の活動により私は英語でもものを考える力が多少はついたと思います。今回の集中講義を初めとして今後の勉強や研究活動においても積極的に英語を使っていきたいと考えています。また、ABBからの講師による講演の中で"Bad English is common English"というフレーズがありました。このフレーズから“私は例え文法や発音に自信がなかったとしても臆せず積極的にコミュニケーションをとりなさい”というニュアンスを感じました。この講義を通してこれから世界に出ていくであろう私たちに要求されるのは、基礎的な英語力の他に英語で考えて積極的に発信していく力であるということが分かりました。これを鍛えるには普通の英語の授業に加えて外国の方と積極的にコミュニケーションをとることが必要であると感じました。

高専は来年度に50周年を迎え、年に2回発行している高専だよりも100号を発行する運びとなりました。高専はこの50年間の間に教育目的が“実践的技術者の養成”から“実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な技術者の養成”に変化しています。私たちは時代の変化に応じて“創造すること”を新たに要求されています。これに応えるためには日本国内の狭い範囲に留まらず、世界に出て様々なことを受信・発信していかなければなりません。そういった点でも今回の授業は意義のあるものだったと思います。

平成23年度工学系数学統一試験結果

教養科 遠藤良樹

昨年、12月10日(土)に実施されました第4学年対象の工学系数学統一試験の結果をご報告いたします。これは学校行事です。工学系数学統一試験は広島大学工学部が主催する数学の試験でマークシート方式の解答になっており、今年度の受験者数は全国で2,555人であり、その多くが大学工学部の学生です。本校は2006年度から6年連続で参加しております。出題分野は「微分積分」「線形代数」「常微分方程式」「確率・統計」の4分野で、本校はそのうち前3分野を受験しており、300点満点です。(C科は常微分方程式のかわりに確率・統計を受験)今年度はじめて300点の満点が本校学生にでました。3分野合計でも全校平均を上回りました。学生はよく努力したと思います。以下、本校学生成績優秀者です。

(受験者数：195名) (敬称略)

順位	学科	氏名	得点
1	D	西村和真	300
2	D	伊庭達哉	294
3	M	小池成彦	293
3	S	押切孝将	293
5	S	佐藤康平	280
6	E	近藤孝哉	275
7	D	片山晃次郎	274
8	S	長谷川充	261
9	E	石塚幸暉	257
9	S	竹内誠太	257

今後も工学系数学統一試験に参加し学生の学習意欲向上につなげたいと思っています。なお過去4年間の分野別得点のグラフは

<http://user.numazu-ct.ac.jp/~endoh/math/emat/bun-ya.pdf>

をご覧ください。

退職教職員から



よき技術者とは

機械工学科

手塚 重久

機械メーカーでの技術者から本校に赴任し5年が経ち、本年度で定年を迎えます。学生諸君と共に過ごした日々は短いものでしたが、40年以上前の自分自身を見るように楽しくもありまた責任を感じる毎日でした。

学生諸君のほとんどは将来の技術者を目指しています。最後にあたり、私の経験で得たよき技術者の人物像を紹介して教職員の皆様、学生諸君への感謝の言葉に代えさせていただきます。

(1) 技術者はゼネラリストである。

物づくりでは、いろいろな部署のいろいろな人の技術が集まって製品が作り出されます。それをまとめ上げる技術者には自分の専門以外にも浅く広い知識が要求されます。実社会の問題はすべてが応用問題です。その時必要なのが学生時代に身に付けた基礎的な広範な知識と論理的な考え方なのです。

(2) 技術者は感受性を磨く。

技術者は好奇心旺盛です。新製品が出ればその仕組みが気になって仕方がありません。機能性にあふれた機械は美しいと思います。これが新しい物づくりに挑戦する

エネルギーなのです。技術者にこそ柔らかで豊かな感受性が必要です。本を読み、人に出会い、美しいものを見て技術者は自分の感受性を磨き続けます。

(3) 技術者はタフな楽道家である。

技術者は時々技術的なトラブルなどで窮地に追い詰められます。それを乗り越えるのはまずは体力です。そして、「どこかに答はある、いつかはそれにたどり着ける」と考える強い心です。「朝の来ない夜はない」と楽道家になってピンチを乗り越えていきます。

(4) 技術者はユーモアが好き。

技術者はいろいろな人に会います。日本では冗談は不真面目と取られる場合が多いですが、外国ではユーモアは教養の一つです。緊迫した会議もユーモアひとつでいっぺんに和やかになります。人間同士の共同作業でその潤滑材となるユーモアが技術者は大好きです。

(5) 技術者は生活を楽しむ。

技術者は毎日の生活をしようとしします。家族として、会社の一員として、人間らしく生きたいと考えています。技術者としてだけが自分のすべてではないとも思っています。自分の生活を大切にする人間こそ世界中の人を豊かにする製品を生み出せると考えています。

学生諸君は、技術者としての道を歩み始めたばかりです。若さとは時間があるということです。そこには無限の可能性があります。それを忘れずこれからの長い道のりを歩み続けてください。



定年に際して

電気電子工学科

高橋 儀男

昭和48年（1973年）4月に沼津高専の電気工学科に着任して以来39年間本校に勤めさせていただき、この3月でもって定年を迎えることになりました。「やっ」という長かったような、「もう」というあっという間であったような、どちらも言える感慨を抱いています。人生80年と考えると、ほぼ半分の期間一箇所働いたということになります。これまでは高専は基本的には転勤もないためこのような状況になるのです。もちろん別の高専や大学等に変わる方もおられますが。

さて、先程電気工学科に着任と言いましたが、現在は電気電子工学科の教員です。それは平成11年度に電気工学科が電気電子工学科と名称変更されたからです。変更理由は、主任技術者の認定校の返上（現在は再度認定校

に指定）や電子制御工学科や制御情報工学科の新設により電気系の総合学科であることを明示する必要があったからです。

実は、私の長男は電気電子工学科となった時の一期生です。沼津高専を受けたいと言われたとき、他学科を受験するという条件で即了承をしました。同じ学科ではお互いにやりにくいという判断です。しかし、最終的には電気電子工学科に入学しました。困るなあとは思いましたが、内心電気系の技術の基礎を学ぶなら電気電子工学科が望ましいとも思いました。私のように沼津高専の教職員のお子さんもかなり入学しており、また、OBのお子さんも多く入学をしています。このことは高専を最もよく知っている人たちが高専を評価していることとなります。私もエンジニア養成という意味では、高専制度は成功した教育制度と思っています。それは、就職や進学を担当したときに知った大学や企業の評価の高さ、実績からよく分かります。「教育の職業的意義」を重視すべきとか、「柔軟な専門性」という概念の提案など（本田由紀）は、高専制度そのものではないでしょうか。

私は近年、年齢差による学生との意識のずれが大きく

なり、また、社会に対する教育機関の説明責任による教育環境の変化等には付いていけない、もう高専を離れるべきと思っていたのですが、定年までいることになってしまいました。これで学校を離れることができほっとしています。定年後は、農業（口の悪い知人は道楽の、と）、好きな本を読む、中途半端なまま気になっていることを腑に落ちるまで考えたい、山にも登ろう、と色々欲深いのですがいつまで健康でいられるのかなあ。

唐突ですが、私の常に心している言葉を示してこの駄

文を終わりにします。

「遺伝、環境、偶然——我々の運命を司るものは畢竟この三者である。自ら喜ぶものは喜んでよい。しかし他を云々するのは僭越である。（芥川龍之介）」

「時間の使い方とは、つまるところヒマをつぶすノウハウとスキルのこと。「ヒマつぶし」といっても、否定的な意味でいっているのではない。人生とは、死ぬまでの壮大なヒマつぶし。どうせ同じヒマつぶしなら、豊かにつぶしたい。（上野千鶴子）」



新たな出発を前にして

電子制御工学科

舟田敏雄

1974年4月に和歌山高専に奉職し、1990年4月に沼津高専に異動し、2012年3月で定年退職することになります。本校では、新学科での進学指導、留学生、専攻科と技術者教育、国際共同研究が私には強く残っています。

ざっと振り返りますと、もともとは流体力学の理論的研究ですが、高専に職を得たのをよい学修機会だと思ひ、学科内の主な研究室、隣の学科そのまた隣の学科の研究室と顔を出しては、いろいろな実験装置を見せて頂き教えて頂いたことが今の自分の原動力になっています。ある程度の力がついた頃、研究上「やる（取組む）」と言っておきながらできていないのは、やる気がないのか、それとも能力がないのか、どちらか？」と問い詰められ、返答できずに困ったこともありました。結局、徹夜して数編の論文を仕上げ、さらに学位論文を完成して何とか合格点を頂きました。

沼津高専では、まずは電子制御工学科の3年生の担任があり、日課の励行、仕事のpace、「精度×速度」等々、いろんな言葉を学生指導に用いて来ました。主に工学数理を担当してきましたが、2年にわたる4単位の科目は予想以上に変化でした。しかし、私自身の学問的礎の再構築には大きな役割を果たしました。そこで培った力は1999

年から始まった国際共同研究でも excellent を頂きました。英語は、しかしながら、not enough yet で終わりそうです。短パンで活気に溢れてキャンパスを走り回る世界的に著名な米国の70代の大学教授をみて、定年も間近…との自分の思いは一新され、負けるまいと意を決して以来10余年経ち、頭脳の動きは若返ったと思っています。

研究成果は、Cambridge 大学出版局から「Potential Flows of Viscous and Viscoelastic Fluids」と題する専門書として2007年に出版され、その序文には次の一文があります：

We worked day and night on this research; Funada in his day and our night and Joseph and Wang in their day and his night. The whole effort was a great pleasure.

（沼津市とミネアポリス市の時差は15時間なので日本での仕事を夜にミネソタ大学の二人に送り、翌朝に二人の仕事を受け取り、昼に進めた結果を夜に送るといったInternet時代の情報交換を活用した共同研究でした。）その間の私の訪米回数は28回となり、最後はJoseph先生の追悼シンポジウムになってしまいました。Joseph先生は次の本の出版計画も進めていただけに、まことに残念です。私の研究室の卒研究生・専攻科生も同行し、米国での共同研究にも参画しました。今となっては楽しい思い出です。

いろいろありましたが私の教員生活もなんとか無事に終わろうとしています。学生（私には競争相手仲間）、保護者の皆様、同僚には長い間のお付き合いに深く感謝いたします。沼津高専のますますの発展、皆様のご健康ご活躍とご多幸を願っております。ありがとうございました。



3年で一人前?

制御情報工学科

相良誠

35年前機械メーカーに入社したとき、「設計者は3年で1人前にならないと会社は持ち出しになってしまう」と言われました。指導員についてマンツーマンで仕事を覚えていきました。平成20年に着任した沼津高専では、授業

や実験指導について新米教員の指導員などいません。手探りの授業で私も悪戦苦闘でしたが、学生も面食らったようです。最初の授業だった加工学で感想を求めたところ「黒板に何か書いたらすぐにどいてほしい、大きな体で板書が見えない」「図を描いたり直したりしないでほしい、ノートで直すのは大変です」などの苦情があり、大いに反省したものです。授業立ち上げに苦労したことを思うと、大学を卒業して教員に採用される若い先生方が4月から授業を始められるのは素晴らしい能力だと感じたいします。

自分の今までの成長でどんな教育が一番影響を与えて

くれたのだらうと考えると「あの先生の授業で〇〇に目覚めた」というような強烈な印象がありません。多くの先生や会社の先輩から多方面の知識と知恵を与えてもらってきましたが、本当に身についた物は渾然一体となって私の知能を育ててくれたのだと思います。1年前に食べた肉や野菜が咀嚼・消化され身体のどこに行っただか分からないけれど、確実に今の自分の体のどこかを構成しているようなものではないでしょうか。その意味でも高専での教育というのは技術者を目指す学生達の知能の骨格身体を作る営みなんだと考えております。

加工学や振動工学で教えた内容について学生は急速に忘れていくのでしょうか。でも企業出身の先生が、いろん

な実験道具や工業製品を持ってきて見せたり触らせたりして分からせようともがいていた姿は何人か覚えていてくれるのではないのでしょうか？いざ必要になって勉強する時、その記憶が手掛かりとなって教科書を開いてくれたら嬉しいものです。

3年半たっても1人前にはなれないままで退職することになりましたが、多くのことを学ぶことができた楽しく充実した時間を振り返って、共に過ごしていただいた教職員と学生の皆様に心から感謝いたします。

創立50年の変革の年を迎え、沼津高専が社会から必要とされ、技術者を目指す若者の学び舎として成長発展されることをお祈りいたします。



日本

学生課長

山 添 均

平成18年度から平成23年度までの6年間沼津高専にお世話になり、最後の4年間は学生課長を務めさせていただきました。この間、校長先生をはじめ、多くの教職員の皆様にご支援をいただき、定年を迎えることとなりました。大学とは異なり、高等専門学校は学生に多くの実験実習を経験させるという大変素晴らしい教育システムを導入し、社会にその有能な人材を輩出されていることに誇りを持つ次第です。

沼津高専と私

学生課寮務係長

佐 野 幸 子

昭和37年に沼津高専が創立され、当初は金岡小を仮校舎とし、学生は千本にあった臨海学校から通学していました。その頃私は小学生でしたが、母の仕事の影響もあって寮にも行ったことがあり、現在の機械工学科棟が建てられる場所で高専の1期生達とバレーボール等よく遊んだりしていました。たまたまその中に出身が山陰地方だという学生がおり、全国から入学していることや、また高専が5年制だと知り、意味もなくこの学校は特別なだと驚いたことを覚えています。

現在の学生寮が建てられると、内緒で部屋の中に入ったこともあります。当時の寮は、4人部屋で勉強室と寝室が分かれていたことが印象に残っています。

高校生になると、教職員のスポーツが盛んで、対外的交流試合があり、教職員に混じって試合をしたり休日は

さて、最後の平成23年は、日本にとって終戦に味わった苦しみに近い東日本大震災に見舞われ、最近の悪い経済状況に更なる大きな課題が加わってしまいました。年末にはNHKドラマ「坂の上の雲」で明治の日本の苦難と奮闘状況が放映されました。過去から今日までに背景の相違はあるものの、「ものづくり」でこの日本がこの苦難から復興してきた或いは復興しようとしていることは事実であり、これからも変わり得ないことでもあります。この沼津高専の存在はその「ものづくり」の中心にあると言えると思います。

沼津高専学生諸君のこれからの活躍を祈念すると共に、その人材育成のために奮闘努力されている教職員の皆様、学校を応援していただいている学生保護者の皆様並びに同窓会の皆様のご健康とご多幸を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

よく応援に駆けつけたり、いつも教職員の皆様と楽しい時間を過ごさせて頂きました。

退職を迎えるにあたり、子供の頃を綴ってしまいましたが、振り返るとこのころの出来事が脳裏に浮かび、懐かしさというより高専と一緒に歩んだ歴史を感じ、私にとっては大切な一生の宝物と思っています。

最後の2年間、学生寮に勤務しましたが、沼津高専の寮生は後輩の面倒見もよく、なんと言っても寮生が運営し規律をしっかり守っていることにびっくりしました。他の高専と比べてもトップクラスだと自負しています。慣れない私のお願いにも協力を惜しまず、いつもお手伝いして頂いた寮生の皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、学生のエピソードになりますが、10年ほど前私が体調を崩し、管理棟の階段付近で嘔吐してしまい呆然としていたところ、たまたま通りかかった女子学生2名の方がいやな顔をせず素早く処理し、「大丈夫ですか」と優しく看護してくれました。このとき学生の優しさに胸を打たれ、目頭が熱くなったほどでした。こんな素晴らしい学生の育成に携わっていた自分がとても幸せです。

教職員の皆様大変お世話になりました。こうして何事

もなく無事退職を迎えることができましたのも、皆様の温かい思いやりや励ましがあったからこそです。深く感謝申し上げます。

何かのことで衝突しても、いつの間にかいつもどおり明るく楽しい雰囲気になっている、そんな職場で勤務することができました。本当にありがとうございました。

卒業生・修了生から

感謝の意を込めて

制御情報工学科5年 吉澤真美

高専に入学してから早くも5年が経とうとしています。具体的な進路を考えずに入学した私も、昨年5月に無事に富士乳業株式会社の内定をいただきまして卒業を迎えようとしています。中学3年生の時、力試しにどうだと父親に言われ受験し、合格した時は両親と共に喜んだことを今でも覚えています。私はこの5年間を通して、多くの課題にぶつかりながらも色んなことを学びました。この場をお借りいたしまして、5年間を振り返らせていただきます。

私はこの5年間のうちに学校を退学したいと思った時が何度かありました。授業のスピードに追いつけなかった時、専門科目が全く理解出来なかった時、クラスメートとの仲が悪くなった時、自分の進路に迷いがあった時など、その時々で迷い、入学したことを後悔していました。しかし、今こうして振り返ってみると、そうして迷ったことは決して無駄ではなかったと思います。私はたくさん悩み、後悔した分だけ周りの人に支えられて過ごしていることに気付きました。

授業のスピードに追いつけなかった時や、専門科目が全く理解出来なかった時、寮で同室だった友達や同じ階の先輩に分からないところを教えてもらいました。消灯時間ギリギリまで付き合ってくれたり、自分の課題を後

回しにしてまで教えてくれたり、周りの友達や先輩が親身になってくれたからこそ今の私があると思います。ありがとうございます！

クラスメートと仲が悪くなった時、まだ私たちは2年生でした。正直クラスに女子が3人しか居ない中での喧嘩は、その先やっていける自信がありませんでした。そんな時、そのぎくしゃくした関係に気付いてくれた担任の先生、保健室の先生、寮母さんのおかげでなんとかまた仲良くやっていこうと思えるようになりました。その後私たち3人は今でも仲が良く、卒業してもたまには連絡をとりたいたいねと話しています。当時、お仕事の時間を割いて話を聞いて下さった先生方、本当にありがとうございました。

私は3年次に学校を辞めてとある専門学校へ進みたいと思ったことがありました。担任の先生に相談し、行きたい専門学校の先生とも面談を重ねていましたが、私の両親は専門学校に行くことは良いが、高専を中退することはダメだと反対しておりました。そして父は私にこんな言葉を残しました。「一つの学校もちゃんとやり通せない奴が、この先何かに成功するはずがない」と。当時は渋々納得していた私でしたが、今になるとこの言葉の意味を理解し、今の自分の進路に満足しています。お父さん、お母さん、ありがとう。

最後に、講義を行って下さった各科目の先生方、サッカー部の顧問の先生方並びに監督、5年間お世話になりました。また、「高専だより」が記念すべき100号に達します時にこうして執筆させていただき、大変光栄でございます。皆様、5年間ありがとうございました。

高専による成長、就職という進路

物質工学科5年 山田大貴

私は沼津高専での5年間の生活を経て就職という道を選びました。沼津高専での5年間は私に多くの影響を与え、入学当初と比較して大きな変化をもたらしました。この変化こそが私を就職という新たなスタートラインに導いてくれたと思います。

高専に入学して最初に影響を与えたのは寮生活です。中学生の頃と比較してはるかに友人と接する時間が増えたことや多くの人との共同生活は、当時の私にとってはとても新鮮でした。共同生活を通して相手の気持ちを考

えて行動するよう心掛けて行動するようになりました。

寮に入ってからしばらくして寮の役員に興味を持ちました。同級生や先輩方と寮についての意見を交換することで様々な視点から物事を考えるようになりました。私は寮に入って相手の気持ちを考えて行動すること、様々な視点から物事を考えることの2つの事を身に付けました。この2つの事が高専に入学してからの私に起きた一番の変化であると思います。この2つの大きな変化を基盤として自分自身になりたい自分に近づくことができたのだと考えています。

時間がかかりましたが学業について自分に合った勉強スタイルを見つけることができました。1年の頃は自分に合った勉強方法が確立できず思うように成績が伸びず悔しい思いをしました。しかし、諦めることなく勉強を続

けていった結果、2年になると成績が上がり自分に合った勉強方法を見つけることができました。また、どの教科からも新しい情報を得ることができ自分の世界が大きく広がりました。その中で自分の得意な、好きな教科を見つけることができ勉強が楽しくなりました。

4年になり自分の進路を考える時期になりました。私は高専に入学した当初から大学への編入学を希望していました。しかし、この時は迷っていました。自分が大学に行った後、今以上にスキルアップして編入学にかかる費用や就職までに費やす時間に見合う成果が出せるか疑問に感じていたからです。また、高専での勉強を通して自分がやりたいことを見つけることができたので早く現場に出て実践的な力をつけたいとも思っていました。沢山悩んだ上でまずはインターンシップに参加して、会社が

どのようなところであるかを体験しようと考えました。それから就職か大学編入学を決めようと思いました。

インターンシップでの体験は非常に貴重なものとなりました。応募の際、エントリーシートに自分のやりたいことである工程管理の内容を書いたことで実際に工程管理の業務を体験させていただきました。自分の目指している仕事がどのようなものであるかを従業員の方に囲まれて体験でき、就職への意識が急激に上昇しました。

インターンシップでの体験が就職への大きな後押しとなり私は就職への道を選択しました。また就職後は高専で成長した部分を活かして精一杯業務に取り組み、後輩や今までの先輩方に恥じないよう努力していきたいとします。

研鑽と躊躇

制御・情報システム工学専攻2年 小林 宏 充

重い扉の向こうは騒音とインクの匂いに満ちていた。右耳のイヤホンからは説明の声が聞こえている。白衣に白帽、靴にもビニールを履かせて、二人の先生と共に工場内を歩いた。2年前、卒研発表を間近に控えた冬のことだった。共同研究のお話を頂いた私は、初めてその企業の工場を訪問した。

専攻科での2年間、私はサブテーマとして画像処理を使った検品装置の実現性を評価した。これは県内の紙容器製造会社との共同研究であり、現在では後輩が本研究として取り組んでいる。本科の卒業研究で画像処理を扱っていたため私に誘いがあったのだが、正直を言うと、最初は遠慮したいという気持ちが多分にあった。メインの研究は他にあるのでやらなくても困ることはないし、余計な仕事を背負い込みたくはなかった。しかし結局は引き受けていた。何故そういう選択をしたのか理由は良く思い出せないが、「自分の成長のため」とか「良い経験になる」とかそういうことを考えていたわけではなかった。単にノーと言いきり辛かっただけなのかもしれない。

先方へのインターンシップを利用して、プロジェクトは本格的に始まった。夏の最中、工場内はやたらと暑く、

うるさく、頭を使うような作業には全く向かなかったが、やらなければならないことは沢山あった。色々なデータが必要だった上、対象が紙であることが問題だった。形状は均一でなく、湿気や温度変化ですぐに変質する。必要な部分がカメラに写らない。「想定外」は幾つもあった。そして、求められていたのは努力ではなく結果であった。無事に成果を出すことができたのは、全く以て仲間と冷水機のお陰であった。2週間の頑張りは、想像以上の好評価によって報いられた。

後期を迎えてからは研究室での作業となった。2月までに原理試作機を開発して関係者の前でデモンストレーションすることが決まり、自分の本研究はほとんど完全にほったらかしにしてしまった。原理試作機の開発は容易でなかった。あまり経験のない規模のプログラムを作成したため幾つものバグが発生し、研究室に模倣的に再現したラインもはっきり言ってあまり良い出来ではなかった。しかし企業の方の尽力もあり、報告会ぎりぎりであったがシステムは無事に完成した。心血を注いだ原理試作機は、関係者の注目の中で完璧に動作した。

ノーと言わなかったその選択が正しかったとは言い切れないが、果たして後悔はしていない。それどころか「良い経験になった」とすら思っている。多少成長したためにそう思えるようになったのかもしれない。大概いつもそうだが、扉の向こうに何があるのかは、開けてみないとわからない。

ブレイク

応用物質工学専攻2年 中戸川 奨

恥の多い高専生活を送って来ました。はじめまして。沼津高専専攻科応用物質工学専攻の中戸川奨です。よろしくお願ひします。さて、沼津高専の広報誌である本誌「高専だより」も今号で何と100号だそうで、素晴らしい

ですね。そんな栄えある本号なのになぜ自分が執筆するところがあるのか全くわかりません。とても光栄で恐縮でプレッシャーで潰れてしまいそうです。おそらくここまで真面目でしっかりした内容のコラムや挨拶などが掲載されているのではないかと思います。私は真面目なことはあまり書けないので、タイトルの「ブレイク」に偽りなく休憩気分できげに読んでいただければと思います。

さて、一応テーマをもらっているのだからそれに関して書

いていこうと思います。テーマ「2年間の専攻科研究を振り返って」。あー、よりもよってこのテーマですか。困りました。過程や結果の考察などは誰もが通る道なのでともかくとして、功績ゼロ、学会発表ゼロです。書くことないです。一応、私はこの学校で数少ない動物実験が可能な研究室に所属していますが、それについて書いてしまうと気軽な雰囲気どころか100号のおめでたい気分まで壊してしまいそうです。なので、ちょっと別のことを書こうと思います。

「専攻科生になっていきなり成長したね！その理由って何だと思う？」と、ある先生に聞かれました。本科の担任をしていらっしゃる先生なので、『その原因を探って、本科生も成長させたい』ということだと思います。「成長」というものは、自分では大変認識しにくいものです。「あの頃とは変わってしまったな」と思うことはありますが、「私、成長してる」とはなかなか思いません。なので「成長」かどうかは分かりませんが、自分が「変わったな」と思うところで本科生の役に立ちそうなことを少し書いて

てみようと思います。

正直に言って、私は勉強が好きではありませんでした。作業として、単位を取るために勉強していました。たぶん、多くの本科生はそうではないかと思います。ただそれは、悪いことではありません。「やりたくないことを強いられている」わけですから嫌いになって当然です。それが専攻科に入って、少し勉強への態度が変わりました。「やりたくない！と強く拒むほどのことでもないな」と考えるようになりました。原因はわかりません。他にやりたいことがなかったからだだと思います。恐ろしいほどにネガティブな理由ですね。でもそんなものです。やりたいことがあるうちは、存分にやりたいことをやっただけいいと思います。なんでもいいです、取り返しの付かないこと以外なら。それに疲れたら、ちょっと教科書を開いてみてください。いつもの勉強とは違った視点で見えるかもしれませんよ？そんな感じで、少しずつブレイク・スルーしてみてもどうでしょうか？

私の高専時代

沼津高専で得たもの

電気電子工学科 望月 孔二

私は電気工学科（現電気電子工学科）の15期生なので、本校に在籍したのは1976～1981年である。それまで小さな中学校で育った私は、高専そして高専寮で多くのことを覚えることになった。

目覚めの音楽や寮の友人からビートルズ、YMO、ユーミンを知った。高専祭や寮祭で先輩たちの演奏するのを聞いて、いくつものフォークソングを覚えた。そうそう、1年生のときの寮の棟長は5年生でちょっと小柄だったが威厳があって、普通の先生よりカッコ良く感じた。「物をどけずに箒（ほうき）を使っても、掃除とは言えない」という指摘は、今でも頭に残っている。

この時代は、ちょうど8ビットマイコンの応用範囲がいよいよ広がり、16ビットマイコンのICのスペックが公表され始めた頃だった。パソコンも販売されるようになり、私はコンピューターに夢中になった。

「情報処理研究グループ」は当時本校に存在した同好会であり、コンピューター好きが集まる場所だった。私も早速入会して、簡単なプログラムから作り始めた。クラブでちょっとした用語がわからなくて先輩に尋ねると、決まって「それはお前が調べること」と素気なかった。

しぶしぶマニュアルをひっくり返して調べたものだ。よくしたもので何回かやっているとな調べ方が分かってきた。当時は先輩のことを理不尽に思ったが、物事を自分で調べる癖をつけることが出来たのはプログラミングの学習よりも大切なことだったかもしれない。

コンピューターではゲームに熱中した。と言っても、楽しんだのは「ゲーム作り」である。コンピューターに五目並べをさせるプログラムを書いたが、全然強くなって、誰にも勝てなかった。オセロも弱いプログラムしか書けなかった。迷路を作るプログラムも書いたが、手書きで私が作った迷路に比べて、私のプログラムが描くものは通り抜けるのが簡単だった。自分がゲームを作る才能は大したことがないと悟った。

こうしたコンピューター生活を送っていると、様々なことをプログラミングしたいと考えるようになった。高専の数学で学ぶ微分方程式について、私はかなりの課題をパソコン上で計算している。課題と言っても宿題ではなく、先生が授業中にチラッと触れたものなどを自ら勝手に設定しなおしたものである。計算の途中で放り出したものは数知れないが、それなりの答えに行きついたこともある。

失敗は多かったが、「自ら責任を持って行動する」という生き方を高専時代に学べたことが、今の私を支えていると思う。

学生の研究活動(2011.5.1～2012.4.30)

論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

機械工学科 (機械・電気システム工学専攻の機械コース含む)

学科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員	備考
ME2	○佐野 裕樹 三谷祐一朗	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.9-14	PID制御教材として複数台製作することを想定した小型磁気浮上装置の開発	三谷 祐一朗	
ME2	○伏見 翔馬 三谷祐一朗	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.15-20	安価に製作できる簡易型DCモータ制御学習教材の開発	三谷 祐一朗	
ME2	○松田 伸也 黄木 景二 渡邊 良介	材料, 第60巻, 第5号(2011), pp.477-481	ぜい性材料の変動負荷速度下での確率的強度評価	松田 伸也	
ME2	○松田 伸也 黄木 景二 渡邊 良介	Journal of materials science, Volume 46, Number 15 (2011), Page 5056-5063.	Estimation of dynamic fatigue strengths in brittle materials under a wide range of stress rates	松田 伸也	
ME2	○羽切 大生 小林 隆志 西浦 謙剛 内山 和明	ASME PVP 2011 Conference, PVP 2011-57757, CD-ROM	EFFECTS OF POST-TIGHTENING ON THE RESIDUAL BOLT FORCE AND THE SEALING PERFORMANCE OF FLANGED CONNECTIONS WITH PTFE GASKETS (LONG TERM EFFECTS AT ROOM TEMPERATURE) 学生論文コンテスト ファイナリスト表彰	小林 隆志	
ME2	○小林 隆志 小賀坂 暢浩 西浦 謙剛 内山 和明	ASME PVP 2011 Conference, PVP 2011-57602, CD-ROM	THE SEALING BEHAVIOR OF LARGE DIAMETER FLANGED CONNECTIONS AND A METHOD TO DETERMINE BOLT LOADS TO SATISFY TIGHTNESS CRITERIA	小林 隆志	
ME2	○小林 隆志 小賀坂 暢浩 西浦 謙剛 内山 和明	ASME PVP 2011 Conference, PVP 2011-57813, CD-ROM	STRESS AND DEFORMATION ANALYSES OF LARGE DIAMETER BLIND FLANGE CONNECTIONS SUBJECTED TO BOLT LOADS AND INTERNAL PRESSURE	小林 隆志	

電気電子工学科 (機械・電気システム工学専攻の電気コース含む)

学科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員	備考
DS2	○梅原 猛 野毛 悟	信学技報, Vol.111, No.176, CPM2011-67(2011), pp.55-60	RFマグネトロンスパッタ法によるAZO透明導電膜の作製	野毛 悟	
DS2	○野毛 悟 梅原 猛	信学技報, Vol.111, No.176, CPM2011-71(2011), pp.73-78	下地基板の影響を軽減した結晶薄膜の形成法	野毛 悟	
DS2	○梅原 猛 野毛 悟	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.31-34	RFマグネトロンスパッタ法によるAZO透明導電膜の作製	野毛 悟	
DS2	○野毛 悟 梅原 猛	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.35-40	下地基板の影響を軽減した酸化物結晶薄膜の形成	野毛 悟	
E5	○桜井 賢人 舟田 敏雄 木ノ内 智貴 大庭 勝久 鈴木 智大 望月 孔二 土屋 吉紀 青木 悠祐 宮内 太積 遠藤 誉人	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012)	2点吊り物理振子の振動解析と実験(1)	望月 孔二	

学科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員	備考
E5	○桜井賢人 舟田敏雄 木ノ内智貴 大庭勝久 鈴木智大 望月孔二 土屋吉紀 青木悠祐 宮内太積 遠藤誉人	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012)	2点吊り物理振子の振動解析と実験(2)	望月孔二	

電子制御工学科 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

学科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員	備考
DS2 DS1 D5	○濱村 功 杉山隆介 飯谷健太 刑部勝也 古橋知大 脇坂 久 青木悠祐	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012)	アーム型ロボット教材による遠隔操作実験システムの構築	青木悠祐	
DS2 DS1	○青木悠祐 大庭勝久 出川智啓 舟田敏雄 濱村 功 杉山隆介	第31回高等専門学校情報処理教育研究発表会論文集, (2011), pp.70-73	パラレルリンクを応用した医用計測システムと動的解析教材	青木悠祐 大庭勝久 出川智啓 舟田敏雄	
DS2	○早苗駿一 大庭勝久	日本高専学会誌, 第16巻第3号(2011), pp.57-62	組込みデバイスの流体計測分野への適用に関する基礎研究	大庭勝久	
DS2	○長谷川 輔 大庭勝久	日本高専学会誌, 第16巻第3号(2011), pp.23-28	ケニアロボコンを題材としたエンジニアリングデザイン教材の開発	大庭勝久	
DS2	○大庭勝久 早苗駿一	論文集「高専教育」第35号(2012)	専攻科生と本科生の協調型学習支援体制の構築	大庭勝久	
DS2	○大庭勝久 長谷川 輔	論文集「高専教育」第35号(2012)	国際技術協力を通じた工学実験用複合教材の開発	大庭勝久	
DS2	○長谷川 輔 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.47-52	国際技術協力から派生した低学年工学実験教材の開発と導入	大庭勝久	
DS2	○長谷川 輔 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.53-58	プリント基板加工機の更新と公開講座の実施について	大庭勝久	
DS2	○早苗駿一 遠山勇樹 伊藤 敦 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.59-64	温度流速計用の温度補償系のFPGA実装	大庭勝久	
DS2	○早苗駿一 遠山勇樹 藤田将喜 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.65-70	専攻科自治会による学習支援体制の構築	大庭勝久	
DS2	○大庭勝久 伊井雅俊 長谷川 輔 舟田敏雄	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.71-76	Mathematicaを活用した専攻科演習の改善	大庭勝久 舟田敏雄	

制御情報工学科（制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む）

学科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員	備考
S5	○藤尾三紀夫 石原賢太 川口龍樹 渡辺育実 池上直行	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012)	拡張現実感技術を応用した超音波ガイド下穿刺手技支援システムの開発	藤尾三紀夫	

物質工学科（応用物質工学専攻含む）

学科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員	備考
C5	○安部晶大 土屋陽香 竹口昌之 蓮実文彦	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012)	セルラーゼ活性へのタンパク質添加の影響	蓮実文彦	
C5	八木ちひろ ○山崎勝子 芳野恭士 宮瀬敏男 佐野満昭	Food and Nutrition Sciences, 3巻, 3号(2012)	Inhibitory effects of pu-erh tea leaves on mouse type IV allergy	芳野恭士	
CB2	河村 慧 郷 智裕 千賀 淳平 中戸川 奨 福田 洸平 ○芳野恭士	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.321-324	カイワレダイコン (<i>Raphanus sativus</i> L. var. <i>longipinnatus</i> L. H. Bailey) の生育に対する低周波音の影響	芳野恭士	
CB2	中戸川 奨 ○芳野恭士 長澤友樹 山崎勝子 川口哲也 宮瀬敏男 佐野満昭	沼津工業高等専門学校研究報告, 第46号(2012), pp.331-336	プーアル茶抽出物および紅茶テアフラビンのマウス糖吸収抑制作用	芳野恭士	

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011／岡山コンベンションセンター／2011.5.26～28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	杉山隆介	電動／空気圧ハイブリッド駆動型超音波診断・治療補助ロボットシステムの構築(戸塚拓伸)	青木悠祐

電子情報通信学会 電子部品・材料研究会／弘前大学／2011.8.10～11

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	梅原 猛	RFマグネトロンスパッタ法によるAZO透明導電膜の作製(野毛悟)	野毛 悟

ASME-JSME-KSME Joint Fluids Engineering Conference 2011／アクトシティ浜松／2011.7.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	早苗 駿一	DIGITALIZATION OF HIGH ACCURACY THERMO-ANEMOMETER FOR HEAT FLUX MEASUREMENT IN STRATIFIED FLOW	大庭勝久

日本高専学会第17回年会講演会／鈴鹿工業高等専門学校／2011.8.27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	長谷川 輔	国際技術協力の取り組みから派生した工学実験用教材の開発 優秀ポスター賞	大庭勝久

日本機械学会 Dynamics & Design Conference 2011 (機械工学・計測制御部門講演会) / 高知工科大学 / 2011.9.5~9

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	佐藤正英	反発係数の微小変動がロッキング振動に与える影響	鄭 萬 溶
DS2	石井孔明	防振台に組み込む動吸振器の開発	鄭 萬 溶
DS2	杉山昂太郎	Wavelet解析による基本周波数の抽出と話者判別	鄭 萬 溶

2011年電気絶縁材料国際シンポジウム/同志社大学/2011.9.7

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	渡邊俊哉	交流高電界印加時の高分子絶縁材料の電気伝導機構に関する研究	遠山和之

日本流体力学会年会2011/首都大学東京/2011.9.8

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	早苗駿一	熱流体計測用の動的補償システムのFPGA実装	大庭勝久

日本機械学会2011年度年次大会/東京工業大学/2011.9.12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	渡邊良介	変動負荷速度下におけるセラミックスの動的疲労強度分布特性と破壊メカニズム	松田伸也
DS2	伊井雅俊	デジタル動的補償系による熱流束計測システムの構築(早苗駿一)	大庭勝久

電子情報通信学会 ソサイエティ大会/北海道大学/2011.9.13~16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	梅原 猛	RFマグネトロンスパッタ法によるAZO薄膜の作製(野毛悟)	野毛 悟

2011年度精密工学会秋季大会/金沢大学/2011.9.20~22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	山梨友里恵	心疾患治療における体外循環に用いる拍動流発生装置の開発-拍動流発生装置から出力される値のモニタリング-(藤尾三紀夫、稲盛修二)	藤尾三紀夫
DS1	矢野公規	予測補正制御に基づく高速高精度加工システムの試作-加工中の工具たわみ予測法の検討-(藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫

日本機械学会山梨講演会/山梨大学/2011.10.22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	羽切大生	昇温時のPTFE系ガスケットの変形特性の測定と評価(小林隆志、内山和明、西浦謙剛、平塚雅章)	小林隆志
ME2	小賀坂暢浩	大口径閉止フランジ締結体の密封特性に与えるガスケット特性の影響(小林隆志、西浦謙剛、内山和明、平塚雅章)	小林隆志

第41回石油/石油化学討論会/山口県教育会館/2011.11.10~12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2	郷智 裕	<i>Pseudoanabaena</i> sp. 由来多糖の解析	蓮實文彦

ETロボコン2011チャンピオンシップ大会/パシフィック横浜会議センター/2011.11.16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2 D5	塚本 駿 池谷典之 青柳拓也 近藤紘也	オブジェクト指向設計に基づく競技用ソフトウェア開発	牛丸真司

第58回日本臨床検査医学会学術集会/岡山コンベンションセンター/2011.11.17~20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	新美茉莉	便中プロトポルフィリンノ新測定方法についての検討	蓮實文彦

第54回自動制御連合講演会/豊橋技術科学大学/2011.11.19~20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	伏見翔馬	安価に製作できる簡易型DCモータ制御装置の開発	三谷祐一郎
DS2	濱村 功	熟練手技再現を目的とした遠隔操作インターフェースの構築(飯谷健太)	青木悠祐
DS1	杉山隆介	検査者との協調動作を目的とした超音波診断・治療補助ロボットの設計と可動域の考察(脇坂久)	青木悠祐
DS2	伊井雅俊	FPGAを用いた熱流体用計測システム用の相互補償系のデジタル化	大庭勝久
DS2	長谷川 輔	ケニアロボットコンテストを通じたロボット開発と国際交流	大庭勝久

第15回破壊力学シンポジウム/石垣市商工会館/2011.11.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	鈴木貴弘	アルミニウム合金の長寿命フレッキング疲労特性に及ぼす表面処理の影響(西田友久、武藤陸治、水谷淳之介、川邑正広、二村優)	西田友久

2011年度精密工学会九州支部大分地方講演会/大分大学/2011.12.10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	石原賢太	拡張現実感技術を応用した超音波ガイド下穿刺手技支援システムの開発(川口龍樹、藤尾三紀夫、池上直行、鈴木裕)	藤尾三紀夫

第49回燃焼シンポジウム／慶應義塾大学／2011.12.7

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	望月翔平	燃焼合成したMgB ₂ の純度に及ぼす初期温度の影響(新富雅仁、牧野敦(JAXA))	新富雅仁

電気学会 誘電・絶縁材料研究会／電気学会本部／2011.12.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	渡邊俊哉	交流高電界下での高分子フィルムの電界発光と損失電流	遠山和之

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2011／ふじさんめっせ／2011.12.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME1	長谷川智洋	慣性ロータを用いた倒立振り実験教材の開発～制御対象を二次遅れ要素に近似するためのDCサーボモータのトルク制御～	三谷祐一郎
ME2	鈴木貴弘	フレット疲労疲労き裂の発生および進展のその場観察(西田友久)	西田友久
ME2	望月翔平	二ホウ化マグネシウムの燃焼合成における初期温度の影響	新富雅仁
ME2	羽切大生	昇温時のPTFE系ガasketの変形特性の測定と評価	小林隆志
ME2	小賀坂暢浩	大口径フランジ締結体の密封特性に及ぼすガasket特性の影響	小林隆志
DS2	梅原 猛	RFマグネトロンスパッタ法によるAZO透明導電膜の作製と特性評価(野毛悟)	野毛 悟
ME1	谷口友紀	交流電動機の瞬時トルク検出に関する研究(高野明夫)	高野明夫
D5	飯谷健太	医師・検査技師の超音波プローブ走査手技解析を目的としたモーションキャプチャシステムの開発(濱村功)	青木悠祐
D5	脇坂 久	検査者の負担軽減を目的とした超音波診断・治療補助ロボットシステムの設計・製作(杉山隆介)	青木悠祐
D5	古橋知大	心電図同期画像再構成による超音波診断手技・断層像取得インターフェースの構築(濱村功) 優秀ポスター賞(機械・電子制御・ロボット分野)	青木悠祐
D5	刑部勝也	遠隔超音波検査支援のための双方向通信インターフェースの構築(杉山隆介)	青木悠祐
D5	池谷典之	自ら進むべき道を判断し、様々な課題をクリアする小型自律ロボット(脇坂久、飯谷健太、刑部勝也、古橋知大、青柳拓也)	牛丸真司 青木悠祐
DS2	伊井雅俊	FPGAを用いた温度流速計用のデジタル遅延補償系の開発(早苗駿一) 優秀ポスター賞(機械・電子制御・ロボット分野)	大庭勝久

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	長谷川 輔	移動ロボットを用いた液体輸送制御に関する基礎研究 優秀ポスター賞(機械・電子制御・ロボット分野)	大庭勝久
D5	鈴木智大	医療福祉機器における要素技術の習得に向けた振動系教材の開発	大庭勝久
D5	宮田昌輝	振子を題材とした多面的問題解決型の工学実験教材の開発 最優秀ポスター賞(機械・電子制御・ロボット分野)	大庭勝久
DS2 D5	浦田大地	自律分散移動ロボットシステムの開発(小林宏充、齊藤秀人)	川上 誠
DS2 DS1 D5	小林宏充	画像処理による紙容器加工不良の検出(鈴木崇史、内山嘉隆)	川上 誠
DS1	藤永敏輝	二足歩行型分散移動ロボットの開発	川上 誠
ME1 D5	宮地将大 吉田亮太	ゲーム理論を用いた行動と学習の進化に関する研究	江上親宏
D5	佐藤 剛	2つのBelousov-Zhabotinsky反応振動子の同期現象	江上親宏
D5	高村智史	Van der Pol型結合振動子系の実験と解析	江上親宏
D5	土屋愛実	ガン細胞の成長と併用療法の数理モデル	江上親宏
D5	小俣克之	位置センサレス制御に適した永久磁石同期モータの数学モデル 優秀ポスター賞(機械・電子制御・ロボット分野)	大沼 巧
DS1	金子裕哉	流星バースト通信による一閃と沼津間のメッセージ伝送	長澤正氏
DS2	伊藤大輔	サロマ湖-札幌-沼津間の流星バースト通信路の性質 優秀ポスター賞(情報通信・コンテンツ分野)	長澤正氏
DS2	塚本 駿	力入力を操作インターフェイスとするクレーン制御に関する研究	牛丸真司
DS2	土田涼介	群ロボットの探索アルゴリズムに関する研究	牛丸真司
DS2	井上祥太郎	Wavelet解析による異常診断	鄭 萬溶
DS2 DS1	杉山昂太郎	Wavelet解析による話者判別に関する研究(多音節解析)(阪本寛)	鄭 萬溶
DS2	石井孔明	防振台に組み込む動吸振器の開発	鄭 萬溶
DS1	佐藤正英	剛体ブロックのロッキング振動に関する研究 -反発係数の微小変動による影響-	鄭 萬溶
DS1	山梨友里恵	心疾患患者治療における体外循環に用いる拍動流発生装置の開発-拍動流発生装置のモニタリング表示-(藤尾三紀夫、稲盛修二)	藤尾三紀夫
DS1	矢野公規	予測補正制御に基づく高速高精度加工システムの試作-加工中の工具たわみの簡易予測法の検討-(藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫
DS2	和泉僚平	プラネタリーギヤ型低圧水圧モータの出力トルク向上に関する研究	大島 茂

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2	河村 慧	アンモニア資化性微生物による余剰汚泥堆肥化プロセス由来アンモニアの固定化	蓮實文彦
CB2	郷 智裕	海産性微細藻類 <i>Pseudoanabaena</i> sp. NBRC103014株由来多糖の分析	蓮實文彦
CB2	福田 洗平	バイオオーグメンテーションによる油分汚染土壌浄化効果の分析 優秀ポスター賞(バイオ・生物分野)	蓮實文彦
CB2	中戸川 奨	コタラヒムブツの2型糖尿病モデルマウスに対する影響	芳野恭士
CB1	間部 涼祐	コタラヒムブツのマウス腸管免疫系に対する影響	芳野恭士
CB1	橋本 美弥	光触媒を用いるクリーンな芳香族アルデヒド製造	押川達夫
CB2	千賀 淳平	水生植物根圏由来メタン資化細菌叢を利用したメタンの固定	竹口昌之
C5	辻井明日香	担持ルテニウム触媒を用いる沸騰水型原子炉重大事故時の水素処理 最優秀ポスター賞(材料・触媒分野)	稲津晃司
C5	近藤郁美子	チャ育種における生物工学的アプローチ	古川一実
C5	渡邊 彩乃	疎水化ヒアルロン酸-リン酸カルシウムハイブリッドナノ粒子の合成	山根説子

第17回高専シンポジウムin熊本／崇城大学市民ホール／
2012.1.28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME1	小西顕太郎	ZnO系透明導電膜の作製と評価(野毛悟)	野毛 悟
D5	鈴木智大	計測解析手法の体験的学習に向けた振動系教材の開発	大庭勝久
D5	宮田昌輝	振子を題材としたPBL型の工学実験教材の開発	大庭勝久
DS2	長澤祐也	交差免疫性のある2種類の病原体に対するSIRSモデルの解析	江上親宏
ME1	宮地将大	変動環境下における行動の進化	江上親宏
D5	土屋愛実	腫瘍細胞の成長と併用療法の数理モデル	江上親宏
D5	吉田亮太	集団中における協力的行動の進化ゲーム論的解析	江上親宏
D5	脇坂 久	超音波診断・治療補助ロボットにおけるファジィ推論を用いたリンク長決定法の検討(杉山隆介、刑部勝也)	青木悠祐
D5	飯谷健太	超音波診断アプローチ計測のためのモーションキャプチャシステムの構築(濱村功、古橋知大)	青木悠祐

第14回化学工学会学生発表会／東京工業高等専門学校／
2012.3.3

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2	河村 慧	<i>Alcaligenes</i> 属菌体による余剰汚泥堆肥化プロセス由来アンモニアの固定化	蓮實文彦

電気学会モータドライブ、家電・民生合同研究会／電気学会／
2012.3.8

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	塚本 優	位置センサレス制御のための信号重畳に適した拡張誘起電圧モデルにおける抵抗誤差による影響の解析	大沼 巧

電子情報通信学会東海支部卒業研究発表会／岐阜大学／
2012.3.8

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	土屋吉紀	2点吊り物理振子の振動解析	望月孔二

日本機械学会関東支部関東学生会第51回学生員卒業研究発表講演会／日本大学／2012.3.9

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	桜井賢人	2点吊り剛体振り子の振動解析と実験(1)－捻りmode－(舟田敏雄、木ノ内智貴、柏木洗、遠藤誉人、宮内太積)	舟田敏雄 宮内太積
D5	木ノ内智貴	2点吊り剛体振り子の振動解析と実験(2)遊動円木振動(舟田敏雄、桜井賢人、遠藤誉人、柏木洗、宮内太積)	舟田敏雄 宮内太積

日本機械学会東海学生会第43回学生員卒業研究発表講演会／名古屋工業大学／2012.3.14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME1	長谷川智洋	慣性ロータを用いた倒立振り子実験教材の開発～不安定な二次システムの典型例としての利用方法～	三谷祐一朗
M5	伊藤 健	大気中でのチタン材料の固相接合	松田伸也
M5	伊藤康治	セラミックスのための確率論的残存強度予測	松田伸也
M5	平尾拓也	ステンレス鋼の応力腐食割れと原発に関する一考察	松田伸也
M5	遠藤 誉人	2点吊り振り子と小振り子の振動解析と実験(柏木洗、宮内太積、木ノ内智貴、桜井賢人)	宮内太積 舟田敏雄
M5	柏木 洗	半円柱の非線形振動の数値解析と実験(遠藤誉人、宮内太積、木ノ内智貴、桜井賢人)	宮内太積 舟田敏雄
DS2	伊井雅俊	FPGAを用いた熱流体計測システムにおける動的相互補償系のデジタル化	大庭勝久
DS2	長谷川 輔	複合要素を取り入れたマイコン学習教材の高度化と実践	大庭勝久
D5	鈴木智大	LabVIEWを用いた変形Atwood機械の振動計測・解析環境の開発	大庭勝久

2012年度精密工学会第19回学生会員卒業研究発表講演会／首都大学東京／2012.3.14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	石原賢太	拡張現実感技術を応用した超音波ガイド下穿刺手技支援システムの開発(川口龍樹、藤尾三紀夫、三改木裕矢、池上直行)	藤尾三紀夫
S5	三改木裕矢	心疾患治療における体外循環に用いる拍動流発生装置の開発ー拍動流発生装置のモニタリング表示ー(山梨友里恵、藤尾三紀夫、稲盛修二)	藤尾三紀夫

2012年度精密工学会春季大会／首都大学東京／2012.3.14～16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	山梨友里恵	心疾患治療における体外循環に用いる拍動流発生装置の開発ーモニタシステムの改良と有用性の確認ー(藤尾三紀夫、三改木裕矢、稲盛修二)	藤尾三紀夫

日本機械学会東海支部第61期総会・講演会／名古屋工業大学／2012.3.15～16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	佐野裕樹	PID制御教材として複数台製作することを想定した小型磁気浮上装置の開発	三谷祐一郎
ME2	伏見翔馬	安価に製作できる簡易型DCモータ制御学習教材の開発	三谷祐一郎
ME2	鈴木貴弘	フレット疲労挙動のその場観察(西田友久、武藤睦治)	西田友久
M5	遠藤誉人	様々な物理振子の非線形振動実験と解析(宮内太積、柏木洗、舟田敏雄、望月孔二、大庭勝久)	宮内太積

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M5	柏木洗	様々な物理振子の非線形振動実験と解析(宮内太積、柏木洗、舟田敏雄、望月孔二、大庭勝久)	宮内太積
DS2	早苗駿一	FPGAを用いた温度・速度同時計測システム用の動的補償系の開発	大庭勝久
DS2	和泉僚平	プラネタリーギヤ型低圧水圧モータの出力トルク向上に関する研究	大島茂

電子情報通信学会2012総合大会／岡山大学／2012.3.20～23

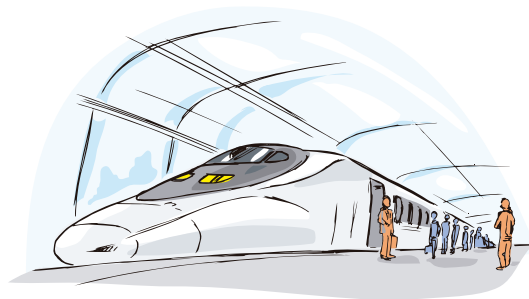
学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME1	小西顕太郎	ZnO系透明導電膜の作製と評価(野毛悟)	野毛悟
DS1	金子裕哉	流星バースト通信による一関ー沼津間のデータ伝送実験	長澤正氏

平成24年電気学会全国大会／広島工業大学／2012.3.21～23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS1	渡邊俊哉	無極性高分子フィルムの高電界誘電特性	遠山和之

日本育種学会第121回講演会／宇都宮大学／2012.3.30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	高橋映莉乃	コムギrDNAプローブを用いたチャ(Camellia sinensis)とツバキ(C. japonica)の染色体FISHの試み	古川一実



平成23年度卒業生・修了生進路先一覧(平成24年3月1日現在)

機械工学科

34名

就職先企業

22名

JX日鉱日石エネルギー株式会社	1
Meiji Seika ファルマ株式会社	1
旭化成株式会社	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1
出光興産株式会社	1
株式会社アドバンテスト	1
株式会社電業社機械製作所	1
株式会社明電舎	1
株式会社ヤクルト本社	1
株式会社リコー	1
関東自動車工業株式会社	1
山九株式会社	1
サントリープロダクツ株式会社	1
シチズンセイミツ株式会社	1
新日本製鐵株式会社	1

住金精鋼株式会社	1
中部電力株式会社	1
東芝エレベータ株式会社	1
東芝機械株式会社	1
東プレ株式会社	1
本田技研工業株式会社	1
マルスン株式会社	1

進学(編入学)先大学等

12名

北海道大学 工学部	1
東京農工大学 工学部	1
静岡大学 工学部	1
名古屋大学 工学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	3
大分大学 工学部	1
首都大学東京 都市教養学部	1
沼津工業高等専門学校 専攻科	2
進学希望	1

電気電子工学科

37名

就職先企業

18名

旭化成グループ	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1
株式会社ツムラ	2
株式会社日立アイイーシステム	1
株式会社日立ビルシステム	1
株式会社ヤクルト本社富士裾野工場	1
株式会社リコー	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
田中貴金属グループ	1
中部電力株式会社	2
東海旅客鉄道株式会社	1
東レ株式会社	1

富士乳業株式会社	1
三菱重工業株式会社 原動機事業本部 横浜製作所	1
明陽電機株式会社	1
Suvany Keosounthone Korsang	1

進学(編入学)先大学等

19名

千葉大学 工学部	1
東京農工大学 工学部	2
横浜国立大学 工学部	1
信州大学 工学部	1
福井大学 工学部	2
名古屋大学 情報文化学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	5
沼津工業高等専門学校 専攻科	6

電子制御工学科

41名

就職先企業

17名

朝日電装株式会社	1
ウシオ電機株式会社	1
オムロン株式会社	1
株式会社エヌ・ティ・ティ ネオメイト	1
株式会社東京保機エンジニアリング	1
株式会社リコー	1
コンティネンタル・オートモーティブ株式会社	1
先生精機株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
東芝機械株式会社	1
東芝キャリア株式会社	1
東芝ホームアプライアンス株式会社	1
日星電気株式会社	1
ネスレ日本株式会社	1
三菱電機ビルテクノサービス株式会社	1

森永乳業株式会社富士工場	1
海上自衛隊技術海曹	1

進学(編入学)先大学等

24名

筑波大学 情報学群	1
筑波大学 理工学群	1
電気通信大学 情報理工学部	2
金沢大学 理工学域	1
福井大学 工学部	1
名古屋大学 情報文化学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	2
京都工芸繊維大学 工芸科学部	2
奈良女子大学 理学部	1
九州工業大学 情報工学部	1
沼津工業高等専門学校 専攻科	10
進学希望	1

制御情報工学科**37名****就職先企業****17名**

CTCテクノロジー株式会社	1
株式会社Savaway	1
株式会社協和製作所	1
株式会社タマディック	1
株式会社テクノサイト	1
株式会社日本精機研究所	1
株式会社島山製作所	1
株式会社日立製作所	1
日本自動ドア株式会社	1
日本たばこ産業株式会社	1
富士乳業株式会社	1
メタウォーター株式会社	1
矢崎総業株式会社	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
和栄工業株式会社	1

富士市役所	1
松崎町役場	1

進学(編入学)先大学等**20名**

北海道大学 工学部	2
東北大学 工学部	1
筑波大学 理工学群	1
千葉大学 工学部	1
東京農工大学 工学部	1
電気通信大学 情報理工学部	1
長岡技術科学大学 工学部	2
静岡大学 工学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	4
大阪大学 基礎工学部	1
高知大学 理学部	3
首都大学東京 都市環境学部	1
専門学校	1

物質工学科**43名****就職先企業****15名**

旭化成株式会社	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1
イハラニッケイ化学工業株式会社	1
オリンパスヘルモバイオマテリアル株式会社	1
花王株式会社	1
株式会社Meiji	1
株式会社ツムラ	1
ジェイカムアグリ株式会社	1
中外製薬工業株式会社	1
東海プラント分析センター株式会社	1
東燃ゼネラル石油株式会社	1
富士乳業株式会社	1
三菱ガス化学株式会社	1
函南東部農業協同組合	2

進学(編入学)先大学等**28名**

東北大学 工学部	1
茨城大学 工学部	1
東京農工大学 工学部	1
東京工業大学 工学部	1
東京工業大学 生命理工学部	2
東京海洋大学 海洋科学部	1
長岡技術科学大学 工学部	3
信州大学 繊維学部	1
信州大学 農学部	2
金沢大学 理工学域	1
静岡大学 農学部	1
名古屋大学 工学部	1
豊橋技術科学大学 工学部	2
広島大学 工学部	1
広島大学 生物生産学部	1
広島大学 理学部	1
大阪府立大学 工学部	1
東京国際大学 人間社会学部	1
沼津工業高等専門学校 専攻科	5

機械・電気システム工学専攻**11名****就職先企業****7名**

セイコーエプソン株式会社	1
ソニーイーエムシーエス株式会社東海テック	1
バックマン・コールドター・三島株式会社	1
メタウォーター株式会社	1
株式会社牧野フライス製作所	1

川崎重工業株式会社	1
東燃ゼネラル石油株式会社	1

進学先等**4名**

東京工業大学大学院	1
横浜国立大学大学院	1
豊橋技術科学大学大学院	2

制御・情報システム工学専攻**16名****就職先企業****7名**

トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	1
株式会社アドヴィックス	1
株式会社テクノサイト	1
株式会社日立プラントテクノロジー	1
株式会社日立メディコ	1

三精輸送機株式会社	1
富士鋼業株式会社	1

進学先等**9名**

東京農工大学大学院	1
東京工業大学大学院	4
奈良先端科学技術大学院大学	4

応用物質工学専攻**5名****就職先企業****3名**

キリンディステイラリー株式会社	1
株式会社中外医科学研究所	1

日本食品化工株式会社	1
------------	---

進学先**2名**

静岡大学大学院	1
奈良先端科学技術大学院大学	1

教育後援会から

卒業に際して

教育後援会会長(E5) 川口 淳子

卒業生及び保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。入学からこれまで、先生方並びに学校関係者の皆様方には大変お世話になりました。御蔭を持ちまして無事卒業を迎える事が出来、保護者を代表し心よりお礼申し上げます。この高専だよりも今回で第100号の記念誌となり、今年はめでたく沼津工業高等専門学校創立50周年を迎える沼津高専にとって記念の年を迎えました。私自身も、非力ながら教育後援会の運営に携わらせていただき、学生の皆様と一緒に卒業かと寂しい気持ちです。

昨年は、卒業式の数日前に東北の大震災にみまわれ日本中が震撼いたしました。皆様方には東北（仙台高専）への義援金を募らせていただきました際には温かいお心遣いで多くの義援金を承りましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

今年の卒業生も就職、進学それぞれの将来への夢を叶える第一歩がこれから始まるとうとしています。そこで、僣越ながら人生の先輩として、私からの餞の言葉として少しお話させていただきたいと思います。

ドイツの文豪「ゲーテ」の言葉に“「したいけど、できない」から脱却しよう”と言うものがあります。自分の夢を貫く、就いた職業を全うする、更はその道のエキスパートと呼ばれるようになるなど、仕事に就く人生を選

んだ場合には、千差万別、職場の環境やその場に携わる人々によって自分自身のやる気や努力が全て報われるとは限りません。新人として研修を受け、一人で仕事をこなせるようになり、その存在を当てにされるようになり、更には年数と共に役が就いたり、グループのまとめ役になったりと、その流れが必ず来るとは限らず歳月は成長を保証はしません。

人生は全て次の二つから成り立っている。「したいけど、できない。」歯がゆさは理解できますが「できるけど、したくない。」逃げては駄目ですよ。 「やらなければならない、でもうまくできない」ということの方が多いのが人生ではないか、だからと言って決して安易に投げ出したり、自棄になったりしない事だと思います。諦めるのは簡単です。そして楽になるかもしれません。ただ、それまでに費やした時間や自分なりの努力が無駄になってしまわない、たった一度の人生をやはり悔いのないように生きて欲しい。それが、学生の皆さんをこれまで育て、応援してきたご両親に対する恩返しだと思います。ですから、可能性のある事にはチャレンジする気持ちとチャレンジする前からダメだと諦めない事です。

昨年の漢字として選ばれた「絆」。人と人とを離れがたくしている結びつきの意味ですが、苦しかったり悩んだり決してこれからの人生、楽しいことばかりではないかもしれません。でも、そんな時は家族や友人との関わりを忘れることなく、一人ではない事を是非いつも思い出して欲しいと思います。これからの旅立ちが素晴らしいものとなるよう、心よりお祈り申し上げます。

卒業に際して

教育後援会副会長(D5) 刑部 浩

卒業生及び保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。若干15歳で入学した子供たちも、あっという間に5年が過ぎ、無事卒業の時期を迎えようとしています。これも先生方をはじめ、学校関係者の方々のご指導・ご尽力に拠るものと深く感謝しております。また、今回の高専だよりが第100号に達するという事で、私としても記念となります。

さて、昨今、私たちが生活する社会ではメール等が発達して情報交換は簡便になりました。しかし、その分、人間関係は徐々に希薄になっていくような気がします。人間関係といっても、親子・兄弟・上司と部下、同僚・友人、対顧客など私たちが住む社会では挙げればきりがなく人間関係は多様であり、社会が複雑になればなるほど人間関係も複雑になっていきます。これから皆さ

んは、様々な人間関係の中で社会生活を営んでいくこととなります。

私が人間関係の中で大事だと思う点は“表現力”だと思います。私たちは「思い」や「感情」など形のないものを「言葉」や「文字」、「態度」という形に変えて相手に伝えます。その「思い」を正確に表現しないと相手に真意が伝わらず、誤解を招くことになりかねません。人間関係の善し悪しは、心や頭の中にあるものを、どのような形に変えるかで決まってきます。長い人生の中で頭ではわかっている、実際に周囲との軋轢で悩み苦しむこともあるでしょう。その時は、ぜひ相手との言葉のやりとりを大切に、正確に思いを伝えることで人間関係の構築を強化して欲しいものです。

最後に2011年は未曾有の東日本大震災があり、皆さんもテレビの映像や新聞記事で事の大きさを知り、各人が「思う」ことがあったことでしょう。ぜひ、これからも経験するいろいろな「思い」を人生に役立たせ、人柄の良い優秀な技術者となって世の期待にこたえられるよう頑張ってください。

事務部から

平成24年度前期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生、専攻科生の、平成24年度前期分授業料免除および徴収猶予申請を受け付けています。希望される場合は、下記のとおり申請してください。

なお、本科1～3年生は原則として、「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

申請方法 授業料免除申請書または授業料徴収猶予申請書（所定様式）を学生係へ提出する。

提出期限 **平成24年4月10日(火)**

※ 所定の様式がありますので、申請を希望される場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

申請者には、後日学生係より、住民票、所得証明書等の必要書類提出について案内いたします。

※ 必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。

- 注意事項**
- 1 今年度より、制度に変更があります。詳しくは本校ホームページまたは申請書類をご覧ください。
 - 2 平成23年10月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象となりません。
 - 3 ご不明な点がございましたら、学生課学生係（055-926-5734）にお問い合わせください。

行事予定表

平成24年

4月

入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
1年生オリエンテーション研修

5月

スポーツ大会・学生総会
寮祭
防災訓練
後援会総会・保護者懇談会

6月

前期中間試験
平成25年度専攻科入学試験
東海地区高専体育大会

7月

1～4年生保護者懇談会
近畿東海北陸信越弓道大会

8月

前期期末試験
一日体験入学
全国高専体育大会
全国高専将棋大会
平成25年度編入学試験

9月

寮生リーダー研修
2年生ミニ研究発表会

10月

2年生特別研修
中学生のための体験授業

10月

4年生工場見学旅行
体育祭・学生総会
高専ロボコン東海北陸地区大会

11月

50周年記念式典
高専祭
授業参観・学科説明会
高専ロボコン全国大会
後期中間試験
テクノフォーラム

12月

4年生工学系数学統一試験
3年生課外教育特別講演

平成25年度

1月

全国高専体育大会
中部近畿地区高専将棋大会
3年生学習到達度試験
3年生合宿研修
平成25年度推薦選抜入試

2月

学年末試験
平成25年度学力選抜入試
5年生卒業研究発表
寮生リーダー研修

3月

卒業式・修了式

高専だよりの変遷



学校だより(高専だよりの前身)
(昭和47年3月発行)



沼津高専だより第1号
(昭和51年7月発行)



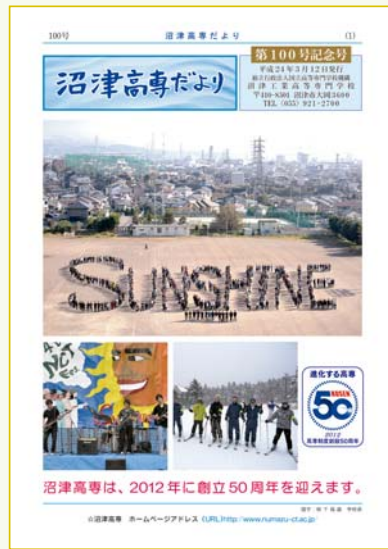
沼津高専だより第25号
(昭和59年7月発行)



沼津高専だより第50号
(平成4年12月発行)



沼津高専だより第75号
(平成13年3月発行)



沼津高専だより第100号
(平成24年3月発行)

